

山鹿市文化観光推進地域計画

1. 実施体制

協議会	名称	山鹿市文化観光推進協議会		
申請者① 協議会の構成員 である市町村又 は都道府県	名称	山鹿市	所在地	熊本県山鹿市山鹿 987-3
	代表者	市長 早田 順一		
申請者② 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	施設の 名称	ア 八千代座 イ さくら湯 ウ 山鹿灯籠民芸館	施設 所在地	ア 熊本県山鹿市山鹿 1499 イ 熊本県山鹿市山鹿 1-1 ウ 熊本県山鹿市山鹿 1606
	設置者の 名称	山鹿市	設置者 所在地	熊本県山鹿市山鹿 987-3
	代表者	市長 早田 順一		
申請者③ 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	施設の 名称	大宮神社	施設 所在地	熊本県山鹿市山鹿 196
	設置者の 名称	(宗) 大宮神社	設置者 所在地	熊本県山鹿市山鹿 196
	代表者	杉谷 博康		
申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	一般財団法人 山鹿市地域振興公社	所在地	熊本県山鹿市山鹿 1-1
	代表者	阿蘇品 貴司		
申請者⑤ 文化観光推進 事業者	名称	やまが文化の芽	所在地	熊本県山鹿市山鹿 1465
	代表者	吉丸 洋		
申請者⑥ 文化観光推進 事業者	名称	有限会社八千代座倶楽部	所在地	熊本県山鹿市杉 954
	代表者	戸澤 栄二		
申請者⑦ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 山鹿温泉観光協会	所在地	熊本県山鹿市中央通 510-2
	代表者	高野 誠二		
申請者⑧ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 平山温泉観光協会	所在地	熊本県山鹿市平山 5346-1
	代表者	向 大和		

2. 事務の実施体制

事務の体制

山鹿市文化観光推進協議会（以下、「協議会」という。）

- ・「山鹿市文化観光推進地域計画（以下、「本計画」という。）」の作成及び変更
- ・本計画に関わる協議及び調整並びに本計画における事業の実施、進捗管理及び評価

【構成団体】山鹿市、大宮神社、一般財団法人山鹿市地域振興公社、やまが文化の芽、有限会社八千代座倶楽部、一般社団法人山鹿温泉観光協会、一般社団法人平山温泉観光協会（以上7団体）

【事務局】やまが文化の芽[申請者]

1 協議会の構成員である市町村

(1) 山鹿市 【施行規則第1条第2項第1号】

- ・協議会の運営並びに本計画の取りまとめ、全体調整及び進捗管理の補佐
- ・本計画地域全体に係る事業実施並びに当該事業の進捗管理及び評価
- ・所管する文化観光拠点施設における事業実施並びに当該事業の進捗管理及び評価

【所管する文化観光拠点施設】八千代座、さくら湯、山鹿灯籠民芸館

2 文化観光拠点施設の設置者（協議会の構成員である県及び市町を除く）

(1) 大宮神社

- ・本計画の中核となる文化資源の所有者として、本計画全体への助言
- ・所有する文化観光拠点施設における事業実施並びに当該事業の進捗管理及び評価

【所管する文化観光拠点施設】大宮神社

3 文化観光推進事業者

(1) やまが文化の芽 【施行規則第1条第2項第1号】

- ・本計画地域全体の事業推進を主導
- ・協議会の運営並びに本計画の取りまとめ、全体調整及び進捗管理
- ・民間事業者の視点や経験を踏まえた、地域の関係者との連携及び関係者間のコーディネート
- ・本計画地域全体に係る事業実施並びに当該事業の進捗管理及び評価

(2) 一般財団法人山鹿市地域振興公社 【施行規則第1条第2項第1号】

- ・協議会の運営並びに本計画の取りまとめ、全体調整及び進捗管理の補佐
- ・民間事業者の視点や経験を踏まえた、地域の関係者との連携
- ・本計画地域全体に係る事業実施並びに当該事業の進捗管理及び評価

(3) 有限会社八千代座倶楽部 【施行規則第1条第2項第2号】

- ・民間事業者の視点や経験を踏まえた、地域の関係者との連携
- ・本計画地域における文化観光の推進に関する事業の企画及び実施

(4) 一般社団法人山鹿温泉観光協会 【施行規則第1条第2項第2号】

- ・民間事業者の視点や経験を踏まえた、地域の関係者との連携
- ・本計画地域における文化観光の推進に関する事業の進捗管理及び評価

(5) 一般社団法人平山温泉観光協会 【施行規則第1条第2項第2号】

- ・民間事業者の視点や経験を踏まえた、地域の関係者との連携
- ・本計画地域における文化観光の推進に関する事業の企画及び実施
- ・本計画地域における文化観光の推進に関する事業の進捗管理及び評価

本計画の発起人であり、企画、作成に当たった民間団体である「やまが文化の芽」を中心に、文化観光拠点施設の所有者である山鹿市、さらにその指定管理者である山鹿市地域振興公社が事務を補佐して実施する。また、文化拠点としての調査研究機能に関しては山鹿市の学芸員と連携していく。各事業の事務は各々の実施主体者が行い、全体的な事務はやまが文化の芽が執り行い、山鹿市が補佐する。なお、当協議会の担当者からなる「担当者会議」を定期的に行い、事業の進捗や連携、会計等について確認、協議する。また、必要に応じて協力団体との打ち合わせも行い、企画立案、事業評価、個別事業等について検討する。

さらに、関係機関・団体で組織する上記協議会において、各年度の実施事業の実施状況や次年度の事業計画等を協議し、観光の面から山鹿温泉観光協会や平山温泉観光協会も助言や提言を行う。当協議会には、山鹿市および山鹿温泉観光協会、平山温泉観光協会が菊池川流域日本遺産協議会の構成員であることを踏まえ、本計画の事業に関する情報を菊池川流域日本遺産協議会と共有していく。

各事業を実施する際の協力団体としては、山鹿商工会議所、山鹿市商工会、山鹿市物産振興協会、山鹿青年会議所、山鹿市飲食店組合を想定している。

3. 計画区域

本計画は、八千代座・山鹿灯籠民芸館・さくら湯・大宮神社を拠点施設として山鹿市全域を計画対象地域とする。



4. 基本的な方針

4-1. 現状分析

4-1-1. 主要な文化資源

1 主要な文化資源の全体像

①全体像

本市は、市の南部を流れる菊池川を中心に古くから米作りが盛んに行われ、豊かな生活文化が営まれたことを示す文化財が点在する。弥生時代後期の大規模環濠集落跡である史跡方保田東原（かとうだひがしばる）遺跡は主要な出土品が重要文化財となっている。また、古墳時代は国内屈指の装飾古墳であるチブサン古墳・オブサン古墳に代表されるように、市内各地に装飾古墳が造られた。さらに、7世紀の緊迫した東アジア情勢から日本を守るため古代山城の鞠智城が築かれた。

近世に街道が整備されると、中心部一帯は菊池川水運の中継地であるとともに、豊前街道を軸に菊池往還や兼松（かねまつ）往還等が分岐する交通の要衝となった。さらに、もともとこの地は平安時代から知られる温泉地であったことから、温泉宿場町として栄えた。そして、近代以後は商都としても栄え、街道沿いには酒造蔵や味噌醤油屋、旅館等の商店が建ち並び、芝居小屋の八千代座や大衆温泉のさくら湯といった巨大な木造建築のほか、コンクリート造りの銀行（現：山鹿灯籠民芸館）が建てられた。戦後、現代建築に押され、昔ながらの建物は姿を消しつつあったが、歴史的建造物を生かしたまちづくりを進めた結果、町並みの修景が進み、平成19年（2007）には都市景観大賞を受賞するに至った。

また、町の繁栄は、当地の和紙工芸文化を発展させた。「灯籠師」と呼ばれる職人により和紙と糊だけで寺社仏閣などを精巧に作り上げる「山鹿灯籠」は室町期に始まるとされ、江戸時代以降、町の旦那衆によって技術が磨かれ作品の精巧度が向上した。現在もその技術は引き継がれ、大宮神社の例祭である山鹿灯籠まつりで毎年30基近くが奉納される。そのまつりの際、金灯籠を頭に被った多数の女性が幾重もの光の輪を作って踊る「千人灯籠踊り」は幻想的な世界を作り、多くの観光客を集めている。

②湯町

近世、山鹿の中心地は「湯町」と呼ばれ、「新編肥後国志草稿」（享保13年（1728））の中で、宿町・温泉町として登場し、同書には湯町御茶屋、湯町町奉行宅等があったと記されている。細川忠利の肥後入国後、藩主の休憩所、宿泊所として領内各地に整備されたのが御茶屋で、幕府の上使や他所からの賓客の休泊にもあてられた。忠利は山鹿の温泉を気に入り、寛永17年（1640）に御茶屋を新築し、同年11月に宮本武蔵を山鹿の御茶屋へ招いた。以来、湯町は参勤交代時の宿泊地となり、温泉宿場町として繁栄した。この御茶屋が後のさくら湯となる。

熊本藩の参勤交代路の一つであった豊前街道は、熊本と小倉を結ぶ主要道であった。菊池川を渡って山鹿に入ると惣門があり、不審者の出入りを取り締まっていた。

「山鹿湯町絵図」（宝暦13年（1763））をみると、街道沿いには商家の町並みが形成されていたことがうかがえる。なお、湯町はたびたび火災で家屋を焼失しており、文政9年（1826）、安政5年（1858）には大火に見舞われている。現在、街道沿いに残っている建造物に瓦葺や柱を塗り込めた土蔵造が多く見られるのは延焼防止のため藩が推奨した結果と考えられる。

文政12年（1829）、それまで渡船だった大川口に山鹿大橋が完成すると、山鹿温泉は近郷民の入湯場としてさらに賑わいを見せ始めた。また、酒造業のほか、米をはじめとする農産物・紙・絹糸・綿布等を媒介とする様々な産業が隆盛して、菊池川を利用した水運業がもたらす莫大な利益は、山鹿に旦那衆と呼ばれる富商たちを誕生させた。

旦那衆の本業は米に関する商売が多かったが、大地主や旅館業・料亭、呉服商のほか、製糸会社、鋳物工場経営等の複数の商売を営む者もあり、業種ごとの組合や私立銀行を設立して経営基盤を強化していった。

こうした旦那衆の中には、明治3年（1870）熊本藩に誕生した実学党政権下で横井小楠に学び、私財を投じて済世救民の思いを実行に移す者が現れた。彼らは進取の気性に溢れ、これに刺激された市民を巻き込んで現在の山鹿を代表する観光施設（八千代座やさくら湯）を誕生させるとともに、養蚕業の振興や鉄道敷設など商業観光都市としての魅力を一層高める役割を果たした。

③山鹿温泉の特徴的な文化資源

さくら湯

山鹿温泉の発見は今から850年以上前に遡る。保元の乱に敗れて下ってきた宇野親治が、手負いの鹿が湯浴

みをして傷を癒しているのを見て温泉を発見したと伝わる。実際には、平安時代の承平4年(934)に書かれた『和名抄(わみょうしょう)』の中にも肥後国山鹿郡の「湯泉郷(ゆのごう)」として記されており、温泉場として広く知られていたことが分かる。

さくら湯は、山鹿温泉のシンボルである。山鹿温泉とさくら湯の関係は、明治になってからのことで、明治3年(1870)、参勤交代の廃止によって御茶屋の利用が減り、老朽化も進んでいたため、それを大規模な公衆浴場として改築する計画が旦那衆から持ち上がったことに始まる。明治3年～明治5年(1870～1872)に行われた大改築で公衆浴場のさくら湯が誕生した。龍の湯(御前湯)・紅葉湯(御次の湯)の連なる棟と桜湯(外湯)の棟がT字型に配置され、これがさくら湯の特徴である十字クロス構造(屋根が十字に交わる構造)のきっかけとなった。

明治31年(1898)に愛媛県道後温泉の棟梁・坂本又八郎氏を招いて改修が行われ、北側に唐破風を備えた玄関が設けられた。さらに昭和4年(1929)の改修では南側にも唐破風の玄関が設けられ、十字クロス構造となった。

当時、内湯を持たなかった多くの町民にとって、さくら湯は生活の一部であり、山鹿の温泉文化の象徴となった。「山鹿千軒たらいなし」という言葉が今も知られるように、山鹿町民はこぞってさくら湯でその日の疲れを癒した。

その後、さくら湯は昭和50年(1975)に中心市街地の再開発に伴い解体されビルに建て替わり、ショッピングセンターに内包される形になったが、平成24年(2012)に往時の雰囲気を残す木造建築で復興され、現在に至っている。



江戸時代の御茶屋(のちのさくら湯)



明治初期のさくら湯



明治初期のさくら湯

八千代座

明治時代になると、山鹿でも大きな変化があった。山鹿の明治三大改革は、山鹿温泉(さくら湯)の大改築、山鹿鉄道株式会社の設立、そして八千代座の建設といわれる。

もともと宿場町として栄えていた山鹿の中心部には、明治期も数多くの湯治宿屋と商人宿があったが、この温泉に多くのお客を引き入れるための交通手段が望まれていた。明治29年(1896)に山鹿鉄道株式会社(のちの鹿本鉄道株式会社、昭和40年(1965)に鉄道廃止)が設立されると、地元実業家たちは大きなチャンスと活気づいた。多くのお客を呼び込み、さらに滞在時間を長くするため娯楽施設の設置を企画した。当時の娯楽といえば芝居である。地元実業家たちは、自らが出資して豊前街道沿いにあった藩の会所跡に芝居小屋を建てることを決めた。そして明治44年(1911)に江戸期の芝居小屋様式の八千代座が誕生した。



明治44年 こけら落とし当時の八千代座

八千代座は開業後、歌舞伎や浪曲、活動映画など様々な興行のほか、会社の総会や地区の集会、寺院活動など多種多様な利用があった。その後、主な演芸は芝居から映画へと流れたが、八千代座は映画館としても利用され、山鹿の娯楽の殿堂として多くの人々に賑わった。しかし、戦後はテレビの普及により、八千代座での興行は減少の一途をたどった。そして昭和40年代には遂に閉鎖となり、建物の管理も行き届かず、廃屋のような状態に陥った。

昭和40年代といえば高度経済成長の最中であり、山鹿市でも再開発の波が押し寄せ、市の中心地に立地する八千代座も移築や解体の話が議論されるようになった。しかし、永六輔などの文化人が訪れマスコミに取り上げられたことで保存の機運が高まり、熊本大学工学部の調査などを経て復興運動が盛り上がった。当時所有者であった八千代座管理組合は昭和54年(1979)に八千代座を山鹿市に寄贈し、その後地元老人会などが瓦1枚運動などの募金活動を展開。昭和61年(1986)には復興期成会が発足し、市民挙げての復興運動へと発展した。昭和63年(1988)に重要文化財に指定されたことにより、保存への道筋が付けられた。**大衆が先導し政治を変え建物を残したのである。**

その後、平成2年からは坂東玉三郎の舞踊公演が始まり、この年には全国からのべ4千人を超える観客を集めた。以来、令和2年まで累計270回近くの公演が開催されている。

平成8年(1996)からは「平成の大修理」として5か年にわたる半解体修理が行われ、八千代座がもっとも繁栄した大正12年の姿に復原された。以来、山鹿湯町の町並みのシンボルとして、そして観光の拠点として、年間3万人以上の見学者を集める一方、ホールとしても利用され公演開催で年間約3万人を集客している。

(参考文献) 山鹿市史、八千代座100周年記念誌、湯の町山鹿1～4

山鹿灯籠

山鹿灯籠は和紙と糊だけで立体的に作り上げる工芸品である。その種類は灯りをとす金灯籠をはじめ、実在の建造物を1/20から1/30ほどの縮尺で、細部まで精巧に再現した神殿造りや座敷造り、城造り等の様々な様式がある。山鹿灯籠は「燈籠師」と呼ばれる職人が代々受け継がれた精巧な技術を駆使し、全て手作業で制作する。「骨なし灯籠」という言葉があるように、柱や垂木も空洞につくられていることから、作品は見かけよりもずっと軽い。例えば、一見金属製と見間違えそうな金灯籠は、マンガ単行本1冊よりも軽い。



山鹿灯籠 (金灯籠)



山鹿灯籠 (さくら湯)

山鹿灯籠を地元の神社に奉納する祭りが、山鹿最大の夏祭り「山鹿灯籠まつり」である。毎年8月15、16日に大宮神社の例祭として催され、16日深夜には各町内の氏子や団体の構成員らが山鹿灯籠を灯籠台に載せ、大宮神社まで担いで運び神前に奉納する。この奉納神事は上がり燈籠と呼ばれ、まつりの核となる神事である。



上がり燈籠

また、まつりの中で最も華やかなのは、金色や銀色の山鹿灯籠（金灯籠）を頭に載せた浴衣姿の約千人の女性たちが、民謡「よへほ節」に合わせて優雅に踊る千人灯籠踊りである。その様子は、幾重にも重なる灯の輪と幻想的な夜の雰囲気とが相まって、見る人を魅了している。



千人灯籠踊り



灯籠踊り

これら文化資源は現在も菊池川流域の風景の中にしっかりとその存在感を主張し、山鹿を代表する歴史的景観を形づくっている。

そして本市は全国でも有数の歴史遺産を持つ自治体として、豊富な農産物や自然、温泉等の地域資源を生かしながら、歴史・文化・景観を大切にしたまちづくりを進めてきた。



菊池川に隣接した市街地

2 文化観光拠点施設

名 称	施設の概要
八千代座	 外観  廻り舞台から見る客席  管理資料館展示状況 本市中心部、豊前街道沿いに位置する。明治43年(1910)建築、建物は規模の大きな木造2階建て、収容人数は最大750人、江戸時代の伝統を受け継いだ本格的な芝居小屋である。棧瓦葺入母屋造妻入。内外とも和風の意匠によっているため和風建築に見えるが、桁から下が伝統工法・桁から上(小屋組)が洋式のトラス工法という、和洋折衷の建築様式であるのも八千代座の特徴である。 年間約70回の公演と90回近くの灯籠踊り定期公演が行われている。それ以外は内部を公開し、年間3万人以上の見学者を受け入れている。 また建物の向かいには八千代座管理資料館がある。明治20年代築の白壁土蔵造りの古民家を改修したもので、内部にはかつての興行のポスターのほか、過去に実際に演劇で使われていた小道具など、八千代座の芝居小屋としての歴史をたどれる資料が展示されている。
さくら湯	 さくら湯内観 豊前街道沿いに位置する。江戸時代の肥後細川藩の山鹿御茶屋を基として、明治初期の大改築により大衆浴場となった。昭和48年(1973)に再開発事業により取り壊されたが、平成24年(2012)に伝統工法による九州最大級の木造温泉として再建した。殿様の湯「龍の湯」が隣接し、二階には温泉資料室がある。
山鹿灯籠民芸館	 外観  別館の灯籠師制作風景 豊前街道沿いに位置する。大正14年(1925)建築。古い町屋建築の中においてコンクリート造の重厚さがひと際目立つ。旧安田銀行山鹿支店として建築された。現在は山鹿灯籠を展示・保存する施設として活用している。 裏に併設する別館は灯籠制作工房となっており、そこには灯籠師(制作職人)が常駐し、山鹿灯籠の制作風景を間近で見学することができる。また、見学者が専用キットを使った灯籠制作も体験できる。

大宮神社（燈籠殿）

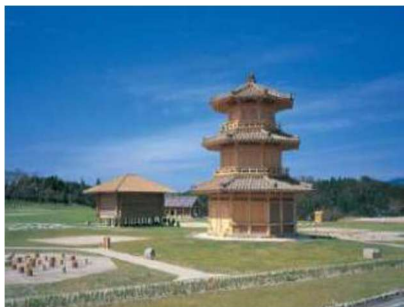


大宮神社燈籠殿

菊池往還沿いに位置する。神社境内にある燈籠殿では、山鹿燈籠まつりで奉納された全ての山鹿燈籠を1年間保存展示する。

展示している山鹿燈籠は、毎年8月16日の上り燈籠のたびに全てが入れ替えられる。

3 その他の文化資源

名 称	文化資源の概要
方保田東原遺跡	 出土した巴形銅器と家形土器 弥生時代の大集落跡で、多数の住居跡や溝跡をはじめ祭祀遺構、小鍛冶跡、土器製作跡等が検出されている。これに伴い、家形土器や巴形銅器、銅鏃、銅鏡等貴重な遺物が出土している。
鞠智城	 復元された鞠智城 天智2年(663)の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した大和政権が、列島への侵攻に備え西日本各地に築城した古代山城の一つである。大規模な朝鮮式山城と考えられている。 現在は、熊本県により歴史公園として整備され、八角形鼓楼や米倉等の建物などが復元されている。
チブサン・オブサン古墳	 チブサン古墳石室内部 チブサン古墳は、古墳時代後期の前方後円墳である。複室の横穴式石室をもち、玄室の石棺に描かれた壁画が鮮やかに残る。大正11年(1922)に史跡に指定されている。 オブサン古墳はチブサン古墳の近傍にある突堤付円墳である。

4 伝統的工芸品

国の伝統的工芸品として指定を受けている山鹿燈籠は、紙と糊だけで作られる和紙の作り物で、山鹿燈籠まつりの際に大宮神社に奉納されるほか、贈答品としても供される。

その作品は金燈籠をはじめ、神殿造り、座敷造り、城造り等の様々な様式があり、全て手作業で制作される。



山鹿燈籠制作風景

5 食文化

菊池川流域日本遺産（平成 29 年認定）にもあるように、菊池川流域は米栽培が盛んであった。また、醸造文化も発達し、日本酒や味噌などが作られ、現在は地元の葡萄を使用したワインも製造されている。また、令和 7 年には山鹿のウイスキー蒸留所が本格稼働する。



ワインの原料となる葡萄



生産量西日本一を誇る栗

このほか、西日本一の生産量を誇る栗は、近年ブランド化を進めている。

6 その他

本市には、山鹿温泉のほか、熊入温泉、平山温泉、菊鹿温泉、鹿本温泉と五つの温泉があり、中心部だけでなく市内各地に多くの温泉旅館や立ち寄り湯などが点在している。

豊富な湯量はもちろん、軟らかくまろやかな肌触りの湯は、「心と体を癒やしてくれる」と古くから観光客や地元の人に愛されてきた。



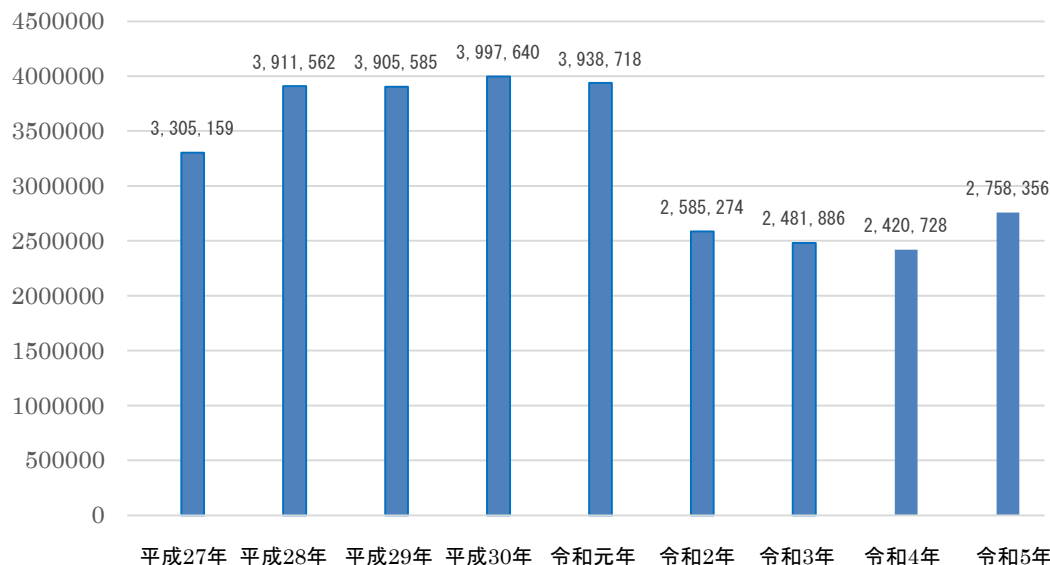
【山鹿市内の国指定等文化財】

文化財分類	名称
重要文化財（建造物）	八千代座
重要文化財（考古資料）	方保田東原遺跡出土品（952 点）
史跡	方保田東原遺跡
史跡	鞠智城跡
史跡	岩原古墳群
史跡	弁慶ヶ穴古墳
史跡	チブサン・オブサン古墳
史跡	鍋田横穴
史跡	隈部氏館跡
特別天然記念物	相良のアイラトビカズラ
天然記念物	菊池川のチスジノリ発生地
登録有形文化財（建造物）	山鹿灯籠民芸館
登録有形文化財（建造物）	大森家住宅（5 件）
登録有形文化財（建造物）	吉岡家住宅（6 件）

①山鹿市の観光推移

単位：人

山鹿市延べ入込客数（年別）

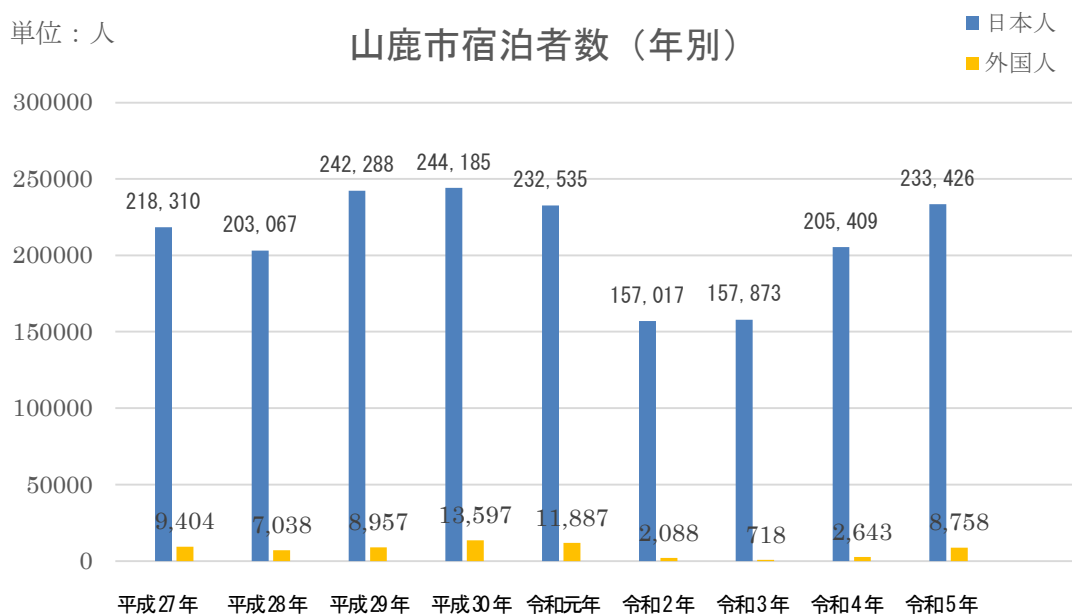


（資料：熊本県観光統計表、山鹿市資料より）

②山鹿市宿泊客数の推移

単位：人

山鹿市宿泊者数（年別）



（資料：熊本県観光統計表、山鹿市資料より）

山鹿市は、平成17年(2005)に山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町、鹿央町の1市4町が合併して誕生した。合併以降、観光客数は減少傾向が続いたが、平成22年(2010)以降は回復し、平成28年(2016)から令和元年(2019)までは400万人に迫る勢いがあった。しかし、令和2年(2020)からのコロナ禍を境に300万人を割り込み減少傾向が続いていたが令和5年(2023)からは微増している。

宿泊客数は、観光客数が増加傾向に変わった平成22年(2010)は31万人であった。以降、減少傾向が続き近年は平均25万人で推移していたがコロナ禍の影響で激減、現在は回復傾向にある。

外国人観光客は宿泊者数の5%弱であり、熊本市の12%と比べると低い割合である。

③月別観光客入込数

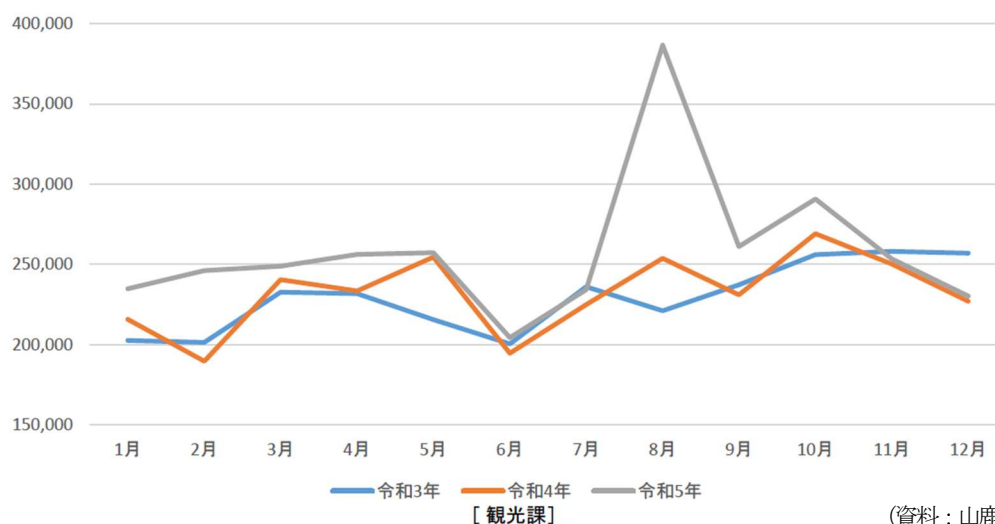
(1) 観光客数

単位：人・%

	令和3年			令和4年			令和5年			対前年増減率		
	計	日帰	宿泊	計	日帰	宿泊	計	日帰	宿泊	計	日帰	宿泊
総数	2,750,141	2,590,998	159,143	2,784,477	2,552,181	232,296	3,104,058	2,892,787	211,271	11.5	13.3	▲ 9.1
1月	202,618	195,028	7,590	215,697	200,196	15,501	234,890	219,367	15,523	8.9	9.6	0.1
2月	201,395	194,600	6,795	189,644	179,869	9,775	246,144	231,747	14,397	29.8	28.8	47.3
3月	232,651	220,178	12,473	240,473	218,430	22,043	248,881	229,787	19,094	3.5	5.2	▲ 13.4
4月	231,810	218,906	12,904	233,486	216,342	17,144	256,263	240,691	15,572	9.8	11.3	▲ 9.2
5月	215,527	206,047	9,480	254,479	240,192	14,287	257,221	239,910	17,311	1.1	▲ 0.1	21.2
6月	200,446	193,145	7,301	194,646	182,834	11,812	204,357	190,845	13,512	5.0	4.4	14.4
7月	236,045	218,584	17,461	224,915	200,992	23,923	234,225	215,475	18,750	4.1	7.2	▲ 21.6
8月	221,125	202,345	18,780	253,699	219,887	33,812	386,617	362,281	24,336	52.4	64.8	▲ 28.0
9月	237,342	227,717	9,625	230,974	215,591	15,383	261,046	244,750	16,296	13.0	13.5	5.9
10月	256,092	240,661	15,431	269,128	242,871	26,257	290,718	271,852	18,866	8.0	11.9	▲ 28.1
11月	258,107	237,732	20,375	250,250	227,204	23,046	253,431	232,332	21,099	1.3	2.3	▲ 8.4
12月	256,983	236,055	20,928	227,086	207,773	19,313	230,265	213,750	16,515	1.4	2.9	▲ 14.5

(資料：山鹿市資料より)

月別観光客数



(資料：山鹿市資料より)

- ・ 2月、6月、9月は、観光閑散期であるため、山鹿市においても落ち込む傾向にある。
- ・ コロナ禍を脱した令和5年8月は「山鹿灯籠まつり」効果で集中している。

④主要施設別来場者数

主要観光施設の利用者数

平成30年(2018)の主要観光施設の年間利用者数は、山鹿温泉が約67.6万人で最も多く、次いで夢大地館(JAファーマーズマーケット)が約61.7万人であった。

主な歴史的な施設では、相良寺が約7.3万人、歴史公園鞠智城・温故創生館が約6.1万人、八千代座が約4.5万人、山鹿灯籠民芸館が約2.6万人であった。

平成30年（2018） 主要観光施設の年間利用者数

施設名	年間利用者数	月平均	施設名	年間利用者数	月平均
山鹿温泉	675,633	56,303	幸の国健康館ゆ〜かむ	53,650	4,471
夢大地館（JAファーマーズマーケット）	617,100	51,425	八千代座	44,750	3,729
鹿本温泉	504,278	42,023	鹿央物産館	44,048	3,671
水辺ブラザかもと	501,052	41,754	熊本県立装飾古墳館	32,792	2,733
道の駅かほく小栗郷	440,699	36,725	菊鹿ワイナリー	28,622	2,385
平山温泉	314,348	26,196	千代の園酒造資料館	27,898	2,325
山鹿市特産工芸村あんずの丘	125,444	10,454	山鹿灯籠民芸館	26,177	2,181
相良寺	72,800	6,067	矢谷溪谷キャンプ場	17,393	1,449
歴史公園鞠智城（温故創生館）	60,839	5,070	一本松農村公園	15,597	1,300
菊鹿温泉	58,706	4,892	岳間溪谷キャンプ場	13,848	1,154

（資料：山鹿市資料より）

主要観光施設来場者数（平成28年～令和5年）

単位：人

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
八千代座	37,913	49,206	44,750	45,384	17,019	17,804	32,143	32,349
さくら湯	170,735	168,005	16,897	165,941	122,168	140,357	133,296	156,374
山鹿灯籠民芸館	18,900	31,580	26,177	25,993	10,937	7,498	8,189	16,447

（資料：山鹿市資料より）

- ・主要観光施設よりも中心市街地ではない夢大地館への来場者数が多い。
- ・平成29年に山鹿市を含む菊池川流域の3市1町のストーリーが「日本遺産」に認定されているが、認定後の主な観光地の来場者をみると大きな変化はなく、その効果が顕著に現れてはいない。

⑤熊本県地域別観光客入込数と宿泊者数

地域別延べ宿泊者数

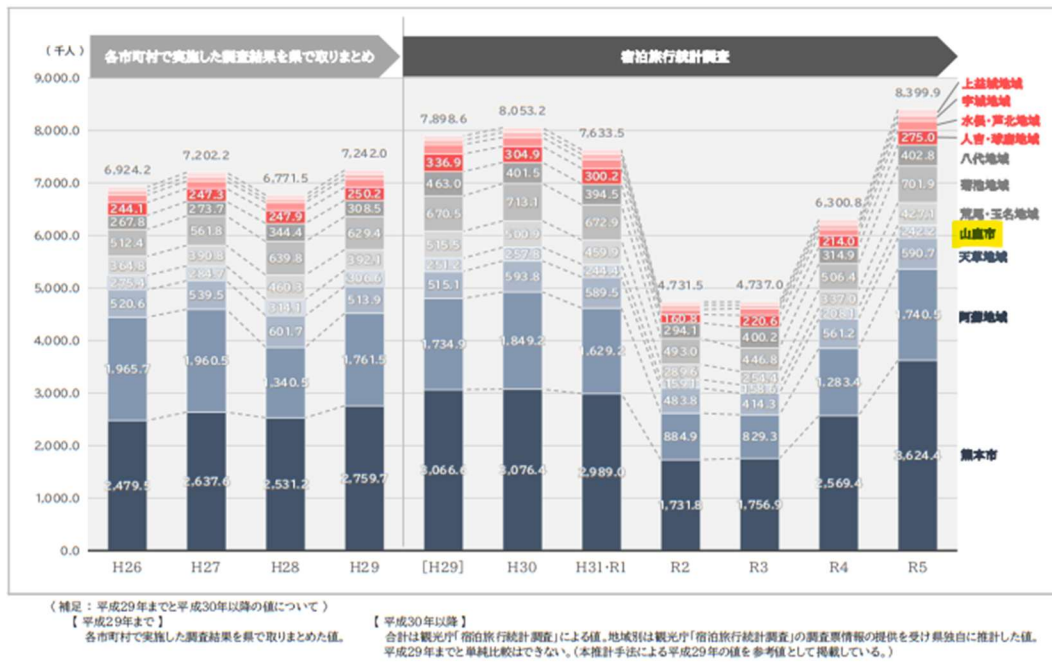
		過去の調査方法 (人)				現在の調査方法 (人)			
地域	区分	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	【平成27年】	【平成28年】	【平成29年】	平成30年 平成31年 (令和元年)
熊本市	延べ日帰り客	3,086,541	2,969,363	2,068,800	2,258,315	2,523,858	2,657,724	3,066,628	3,076,364
	延べ宿泊者	2,479,459	2,637,637	2,531,200	2,759,685				
	計	5,566,000	5,607,000	4,600,000	5,018,000				
阿蘇地域	延べ日帰り客	13,826,188	13,895,061	8,535,441	9,920,099	1,862,936	1,661,898	1,734,910	1,849,200
	延べ宿泊者	1,965,667	1,960,469	1,340,544	1,761,464				
	計	15,791,855	15,855,530	9,875,985	11,681,563				
天草地域	延べ日帰り客	3,898,055	4,052,312	3,824,222	3,924,781	530,201	599,863	515,123	593,756
	延べ宿泊者	520,592	539,489	601,690	513,856				
	計	4,418,647	4,591,801	4,425,912	4,438,637				
山鹿市	延べ日帰り客	3,603,285	3,757,243	3,629,748	3,662,139	227,714	210,105	251,245	257,782
	延べ宿泊者	275,387	284,659	314,091	306,569				
	計	3,878,672	4,041,902	3,943,839	3,968,708				
荒尾・玉名 地域	延べ日帰り客	6,185,595	6,180,630	5,141,321	5,207,688	506,448	562,404	515,484	500,894
	延べ宿泊者	364,771	390,763	460,302	392,088				
	計	6,550,366	6,571,393	5,601,623	5,599,776				
菊池地域	延べ日帰り客	6,538,414	6,636,793	6,370,310	6,270,580	597,023	619,867	670,489	713,088
	延べ宿泊者	512,397	561,846	639,806	629,394				
	計	7,050,811	7,198,639	7,010,116	6,899,974				
八代地域	延べ日帰り客	3,148,283	3,250,711	2,820,534	3,459,551	252,623	320,743	463,003	401,519
	延べ宿泊者	267,837	273,682	344,412	308,497				
	計	3,416,120	3,524,393	3,164,946	3,768,048				
人吉・球磨 地域	延べ日帰り客	2,874,447	2,928,065	2,803,406	3,089,455	266,454	293,855	336,922	304,900
	延べ宿泊者	244,133	247,325	247,927	250,220				
	計	3,118,580	3,175,390	3,051,333	3,339,675				
水俣・芦北 地域	延べ日帰り客	2,558,307	2,584,513	1,849,731	1,815,325	184,133	173,312	179,351	170,111
	延べ宿泊者	144,100	140,431	149,296	153,508				
	計	2,702,407	2,724,944	1,999,027	1,968,833				
宇城地域	延べ日帰り客	3,958,077	4,009,344	3,518,576	3,419,046	91,632	85,353	82,919	96,261
	延べ宿泊者	75,524	82,938	67,904	86,083				
	計	4,033,601	4,092,282	3,586,480	3,505,129				
上益城 地域	延べ日帰り客	2,387,637	2,257,396	1,211,217	1,918,031	87,519	90,057	82,475	89,295
	延べ宿泊者	74,370	82,975	74,360	80,613				
	計	2,462,007	2,340,371	1,285,577	1,998,644				
合計	延べ日帰り客	52,064,829	52,521,431	41,773,306	44,945,010	7,130,540	7,275,180	7,898,550	8,053,170
	延べ宿泊者	6,924,237	7,202,214	6,771,532	7,241,977				
	計	58,989,066	59,723,645	48,544,838	52,186,987				

（資料：令和5年熊本県観光統計表より）

※平成26年度は調査方法が異なる

※地域別は観光庁「宿泊統計調査」の調査情報の提供を受け県独自に推計した値

地域別延べ入込客数推移

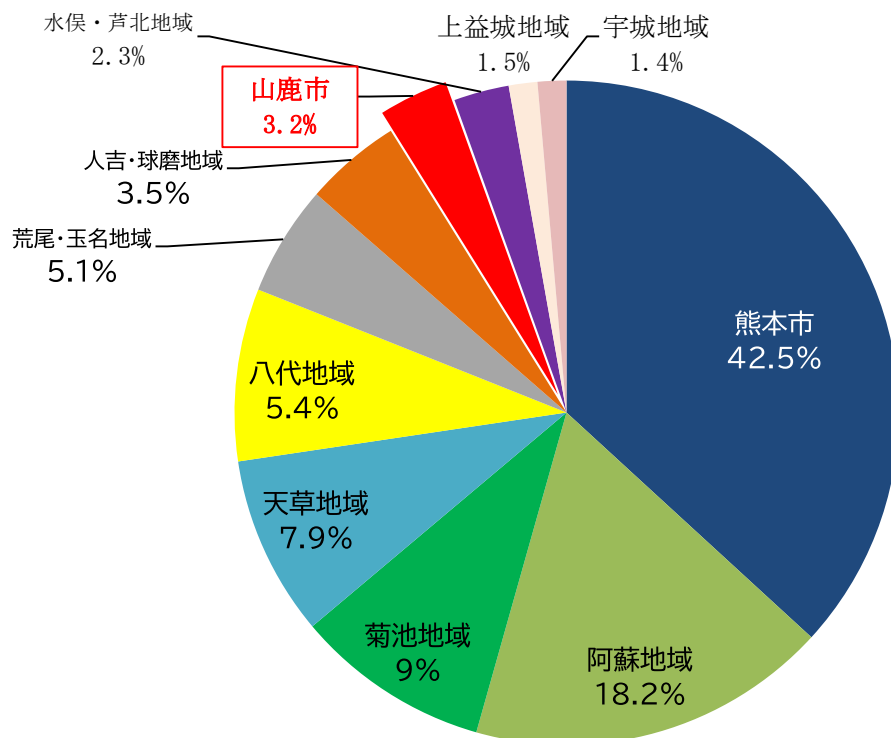


（資料：令和5年熊本県観光統計表より）

- ・熊本県内の入込客数は熊本市地域（熊本城）と阿蘇地域で全体の半分以上を占めている。
- ・山鹿市は熊本城をはじめとする熊本地域や阿蘇地域からは車で約1時間の距離であり、熊本地域や阿蘇地域とは違う山鹿独自の文化観光資源の磨き上げと情報発信を強化すれば、日帰りだけでなく宿泊を伴う誘客に繋がる可能性が高い。

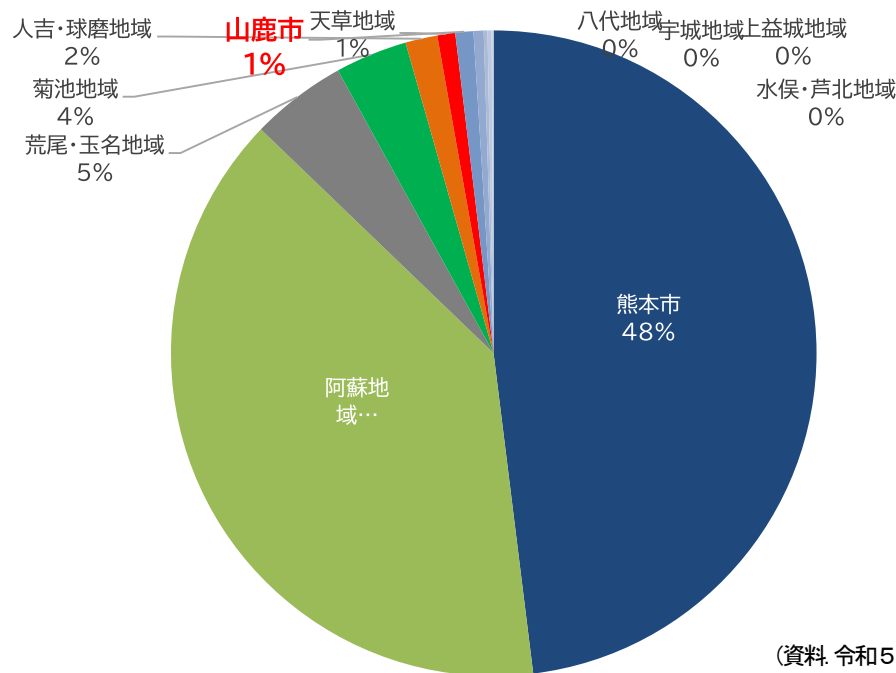
⑥熊本県の地域別旅行者（外国人）構成比

延べ宿泊客数における地域別構成比（日本人）〔年間〕



（資料：令和5年熊本県観光統計表より）

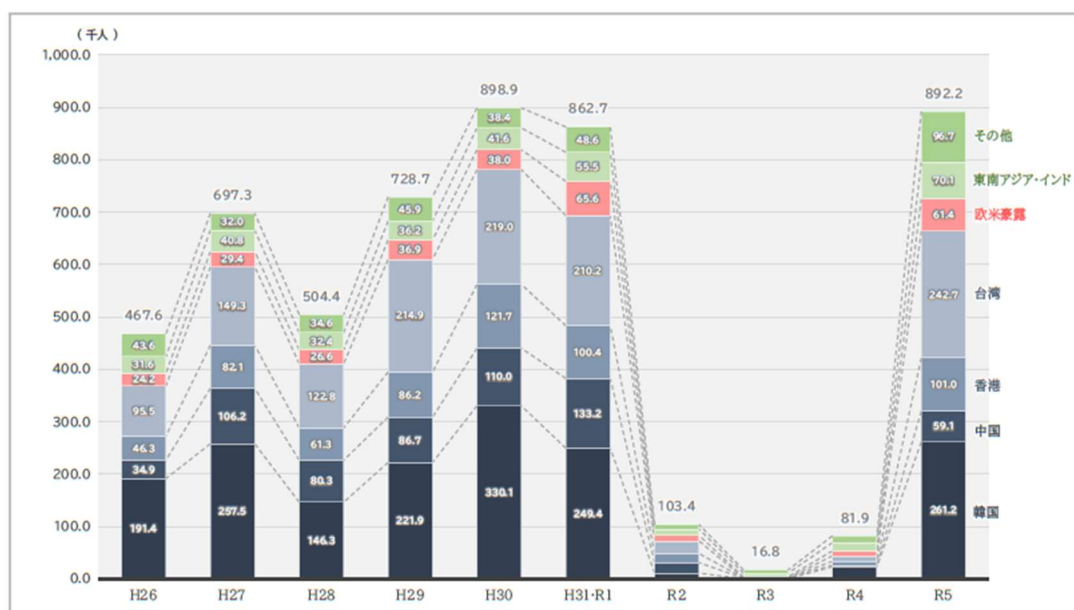
延べ宿泊客数における地域別構成比（外国人）〔年間〕



(資料: 令和5年熊本県観光統計表より)

- ・外国人の延べ宿泊客数は熊本市地域と阿蘇地域が全体の9割近くを占めている。
- ・外国人旅行者の嗜好を捉え、山鹿市に誘導する施策を行うべき。

⑦熊本県の国・地域別外国人旅行者宿泊客数推移



(補足: 国籍(出身地)別外国人延べ宿泊客数について)

観光庁「宿泊旅行統計調査」による値。国籍(出身地)別は、10人以上の延べ宿泊客数の施設が調査対象であるため、国籍(出身地)別の計と「外国人延べ宿泊客数」は一致しない。

*欧米豪露…アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、フランス、ロシア、オーストラリア、イタリア、スペイン *東南アジア・インド…シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、インド(イタリア・スペインは平成26年まで「その他」に含まれる)(「その他」には国籍(出身地)不詳を含む。)

図: 過去10年間による国別外国人延べ宿泊客数 (資料: 令和5年熊本県観光統計表より)

- ・コロナ禍以前は韓国人が最も多いが、近年 TSMC の工場新設も重なり、台湾人の比率が多くなる傾向がある。
- ・団体旅行者よりも少人数の長期滞在旅行者である層を取入れ、近年来訪者が増加している台湾や韓国などのアジア層の高付加価値化につながる旅行商品の造成を目指す必要がある。

○山鹿市の観光面の現状把握

1 強み

- ・観光地としてもある程度の知名度を有しており、来訪者はある一定数の入込客数がある。
- ・福岡都市圏から高速道路で2時間弱、熊本市から車で約1時間と人口集中地帯に比較的近い。
- ・熊本城や阿蘇などの著名な観光地ともほど近い距離にあり、連動した誘客が期待できる。
- ・明治期の芝居小屋や歴史的な町並みが整備されている。
- ・多くの来場者を集める祭り（山鹿灯籠まつり）が毎年開催されている。
- ・近年、県内にTSMCの工場新設を受けて、台湾人の来訪が増えている。

2 弱み

- ・特定の資産・施設への来訪に偏っており、地域内周遊が十分に図られていない。
- ・ゲートウェイ機能を有する施設の認知度が低く、そこへの来訪者が少ない。
- ・宿泊者は来訪者の約7%と、滞在時間の短い通過型観光地となっている。
- ・インバウンドの宿泊者数も熊本市、阿蘇市に比べ圧倒的に少ない。
- ・公共交通機関によるアクセスが悪く、二次交通も整っていない。

3 本計画におけるターゲット

(1) 国内

ア 福岡都市圏在住者

- ・子育てがひと段落した50～60代の夫婦や、歴史に関心があり車で移動することが好きなミドル世代の女性グループ。

イ 熊本県内在住者

- ・美肌に意識が高く、古いものが好きな若いカップルまたは少人数の女性。

ウ 首都圏在住者

- ・本物志向の体験を求めるアクティブシニア層および成熟した大人世代（40代後半～60代の夫婦・友人グループ）

エ 関西圏（京阪神）在住者

- ・歴史・文化・街歩きに関心のある比較的若い世代（30代～40代の女性グループ、カップル、夫婦）

オ その他

- ・芝居小屋や歴史のある町並み、遺跡や古墳巡りに関心が高い個人または少人数グループ。

(2) インバウンド

ア アジア圏

- ・台湾人を中心として、ある程度日本に慣れた個人または少人数のグループ。

イ 欧米豪圏（特にアメリカ）

- ・日本文化への興味・関心が深い層で、静かな場所を好む個人または少人数のグループ。

4-1-3 他の地域との比較

参考とする他の地域として、豊岡市と比較する

豊岡市は、演劇や文学といった文化を軸に地域づくりを行っており、また、温泉地でもあることから本計画で目指すモデルに近いと考え選定した。

市名	日帰客数	宿泊客数	合計	宿泊客うち外国人	観光消費額日帰	観光消費額宿泊
豊岡市	300万人	60万人	360万人	6万人	7,724円	24,721円
山鹿市	240万人	21万人	261万人	0.26万人	4,300円	19,957円

R4年度比較

【交通の利便性】

城崎温泉の交通の利便性は比較的高く、JR山陰本線の城崎温泉駅がある。また、大阪や神戸からは特急や新幹線を乗り継いでアクセスすることができる。また、京都や姫路からの電車でのアクセスが可能である。空路では但馬飛行場が最寄りの空港で、そこまでリムジンバスで約40分を要する。運航は伊丹空港への1日2便のみである。車を利用する場合は、山陰自動車道の豊岡ICから国道178号線を経由して30分程度で到着することができる。無料の駐車場が多数あるほか、レンタサイクルやモビリティなどもあり散策する準備が整っている。

山鹿市は鉄道が通っていないため、公共交通機関はバスが主となる。バスを利用する場合、熊本中心部や

新幹線最寄り駅の新玉名駅からは約1時間、阿蘇熊本空港からは乗り継ぎで約2時間程度を要する。

一方、山鹿市へ向かうため自家用車やタクシーなどの車を利用する場合、九州自動車道の菊水IC及び植木ICからは20分、新玉名駅からは30分、阿蘇熊本空港からは50分程度で来ることができる。さらに阿蘇熊本空港には東京・名古屋・大阪といった3大都市圏との航空便が就航しており、国際線も韓国、台湾、香港計5路線が就航している。また山鹿市は道路交通上、九州の中心ともいえる位置にあり、福岡市から九州自動車道を利用すると約1時間程度で来ることができるのをはじめ、九州各県県庁所在地からも2～3時間程度で来ることができる。実際、山鹿の観光客は九州北部からが多い。



図 主要な広域交通

【観光コンテンツ】

城崎温泉は湯めぐり発祥の地といわれ、駅を玄関と見立てて街全体をひとつの旅館と考えており、異なる泉質や雰囲気を楽しむ外湯巡りを無料レンタルの浴衣で行えるなど分かりやすい観光戦略をとっている。また、文学のまちとしても有名である城崎温泉ならではの、他では経験できない文化的コンテンツや、近年開催「豊岡演劇祭」などと連携しインバウンドを想定したニッチトップ戦略も展開している。

山鹿市では、毎年8月15日、16日に山鹿灯籠まつりが開催され、多くの見学者を集めている。また、まつり以外の時期には、八千代座で公演のない土曜、日曜に「八千代座物語～山鹿灯籠踊り定期公演～」を開催しており、江戸の様式を色濃く残す芝居小屋と山鹿市を代表する芸能を同時に楽しめる。また、灯籠民芸館では伝統的工芸品の山鹿灯籠の一つ、金灯籠の制作体験も開催している。このほか、豊前街道の歴史的町並みを、そこで商売を営む店主たちが特産の「米」をテーマにガイドをする「米米惣門ツアー」も人気である。

【食・食文化】

城崎温泉は日本海に面した温泉地で、豊富な海の幸や山の幸が楽しめることで知られており、海の幸では松葉ガニが有名である。また、城崎温泉周辺で育てられている城崎牛は、ステーキやしゃぶしゃぶなど様々な料理を楽しむことができる。ふぐ料理や寿司、海鮮丼などは、比較的高価格で提供されている。

山鹿市は内陸部にあるため海の幸はないものの、醸造文化が盛んであった。日本酒や味噌・醤油といった蔵も現存し、山鹿市の惣門地区では見学ツアーが行われている。近年、菊鹿地区にワイナリー、鹿央地区にウイスキー蒸留所が新設されている。またブランド化している山鹿牛・栗・米・茶といった産物はあるが、高価格帯で観光客に提供できるところまでには至っていない。

【宿泊施設】

城崎温泉の宿泊施設数は77軒、延べ宿泊者数は約60万人で、外国人観光客は6万人以上になっている（いずれも令和4年資料）。特徴として「豊岡観光DX基盤」という各旅館の予約・宿泊データを自動で収集・分析するプラットフォームが活用されている。また、外湯で入浴できる共通パスの導入、駅から宿泊施設まで宿泊

客の荷物を無料で運ぶサービスもある。

対して、山鹿市の宿泊施設は42軒、延べ宿泊者数は約21万人であり、外国人観光客は2,643人である（令和4年度資料）。近年、廃校をリノベーションして、宿泊施設とコアワーキングスペースを提供する施設やトレーラーグランピングなど新しい取組が展開されているほか、既設の宿泊施設では、八千代座をモチーフとしたコンセプトルームの開設や飲食店組合と連携した宿泊プランも企画されている。

【インバウンド】

城崎温泉の場合、大人数の団体客に対応できる大型旅館やホテルが少ないため、インバウンドの中では比較的少数派の欧米個人旅行客の誘致を目指し、米国のエクスペディアやオランダのブッキング・ドットコムなど欧米の旅行・ホテル予約サイトとの連携を深め、欧米の個人客の誘致に成功している。また、平成28年(2016)に豊岡版DMOを組織して、フリーWi-Fiの申し込み登録時にインバウンド旅行者の属性を尋ね、国別や年代別の顧客情報を即時に把握し、城崎温泉滞在中の行動分析等を行っている。外国人旅行者は平成23年(2011)から平成28年(2016)までで40倍以上に増加している。

山鹿市では平成28年より熊本県北エリアの4市町（玉名市、山鹿市、菊池市、和水町）及び熊本県（県北広域本部、玉名地域振興局、鹿本地域振興局）で構成する熊本県北観光協議会を組織し、海外からの誘客推進を図るため、台湾・香港・韓国をメインターゲットとしたインバウンド誘客事業（ファムツアーの開催、SNSやテレビでのプロモーション活動）に戦略的に取組んでいる。

以上、豊岡市城崎温泉との比較で見えた山鹿市観光の強みとしては、伝統的工芸品の山鹿灯籠のほか、それにまつわる大規模な祭りの開催、芝居小屋の八千代座とその周辺の町並みが挙げられ、これらに関連させた観光が展開されている。一方、弱みとしては、インバウンドの入込客数・宿泊者数が少なく、そこに向けた情報発信や受入対策も十分とは言えない。また、良質な温泉が市内に数多くあるものの、これらを周遊させる「湯めぐり」への事業展開ができていない。

4-2 課題

課題① 展示空間の魅力不足と解説機能の不足

- (1) 八千代座、さくら湯、山鹿灯籠などの文化資源は、歴史的背景と地域の人々の思いが込められた「本物」としての価値を持っているが、その魅力を十分に伝えるための解説が不足している。
例えば大宮神社においては燈籠殿を見学する際、宮司らの案内があれば、山鹿灯籠の起源や歴史、地域住民の祭りにかける思いなどを知ることができる。さらに、山鹿灯籠の紙工芸品としての技術の高さのみならず、地域になくてはならない文化としての高い価値を理解してもらえる。しかし現状ではガイドも常にできず、説明パネルも不足しているため、その価値を十分に伝えられず、来館者も山鹿灯籠の魅力を理解せずに帰ってしまうことになっている。
- (2) 拠点施設によっては、施設照明や背景の老朽化などにより、展示品の価値や魅力を十分に引き出せていない。
- (3) 国内外の幅広い来訪者に向けて、山鹿の歴史やストーリー等の魅力を一体的に解説できていない。

課題② インバウンド受入れ環境が不十分

- (1) 展示内容やその背景のストーリーについて、外国人観光客の理解を深めるための解説が不足しており、多言語での情報提供も十分ではない。
- (2) 外国人観光客が山鹿の文化に触れる高付加価値商品や、深く理解することができるような体験型コンテンツが不足している。
- (3) 無料wi-fi環境が限られた場所にしか整備されていないほか、キャッシュレス決済、案内表示等の多言語化対応が十分ではない。

課題③ 豊前街道エリアを中心とする滞在時間延長や宿泊者増加につながる取組が不足

- (1) 豊前街道を軸とした地域の滞在時間延長に繋がる魅力的なコンテンツが不足している。
- (2) 豊前街道からやや離れた大宮神社燈籠殿まで回遊する人が少なく、滞在時間延長にもつながっていない。

- (3) 豊前街道エリアでのイベントの期間が固定化されており、宿泊につながる日常的な賑わいの創出ができていない。
- (4) 山鹿温泉と隣接する平山温泉や菊鹿温泉との情報共有がうまく取れていないため、観光客に旅マエ旅ナカ旅アトという時間軸での観光プランが提案できていない。

課題④ 周遊型観光を楽しめる環境整備が不足

- (1) 観光客のニーズ、交通手段、年齢層などの情報が関係者間で連携されておらず、周遊体制の構築ができていない。
- (2) 集客力のあるさくら湯や八千代座から、大宮神社へ周遊する動機づけが弱い。大宮神社燈籠殿と灯籠民芸館の展示物を見た時に、展示コンセプトの差異が解りづらいため灯籠の価値を明確に分かりやすく伝えられておらず、互いの施設に向かう動機づけが弱い。
- (3) 二次交通が不足しているため、山鹿市中心部から市内各観光スポットへ自動車以外では容易に周遊することができない。
- (4) 山鹿灯籠を総合的に理解してもらうべく「山鹿灯籠の道」という散策ルートを設定しているが認知度が低く、周遊観光につながっていない。



山鹿灯籠の道 パンフレット

課題⑤ 情報発信が不足

- (1) 専門家のアドバイスを受け本格的な戦略を練り、効果のある宣伝活動を実施するなど、山鹿ならではの文化的な価値のプロモーション活動が戦略的かつ効果的に行われていない。
- (2) 山鹿地域各拠点施設の収蔵資料のデジタル化・オンライン公開は行っておらず、貴重な文化資源の魅力発信が十分ではない。
- (3) 展示品の価値は高いものの、拠点施設によっては認知度が十分ではない。

コンセプト（基本的な方向性）

ゆまちおとよ

湯町音夜～町衆が紡いだ山鹿に浸かる～

江戸時代には参勤交代の肥後の宿場町「癒しの場」であった山鹿は、文化の発信地だった。

豊前街道には店がひしめき合い、活気に満ち溢れ、長期の湯治者で町は潤った。各所から日常的に三味線の音が流れ、地場のお酒で御客は喉を潤し、快活な笑い声は新たな御客を呼び込んだ。夜、宿から見える障子越しの和紙の灯りは煌びやかに見えたことだろう。

時代の流れとともに生活様式も街並みも変化し、以前の日常は非日常と変貌を遂げてしまったが、山鹿の町衆は先人たちが創りあげ、守り伝えてきた山鹿の「本物」を何とか今に生かし、未来に残すべく知恵と力を注いできた。

「音夜」の音とは単に三味線など楽器の音だけではなく、八千代座の太鼓櫓の音や酒を酌み交わす音、湯浴みの音、街道を行き交う人々の喧騒など山鹿の本物の魅力から発される様々な音である。

本計画では、住民が主体となって山鹿地域の文化観光施設である「八千代座」「さくら湯」「灯籠民芸館」「大宮神社」そして「夜」という要素を絡めた山鹿の奥深い文化体験を創出することで、癒しの場だけではない「本物の文化を体感する場」へと進化させる。山鹿の先人が培ってきた伝統・文化そしてもてなしの気持ちを、伝え、広げ、文化的資産を後世にまで残していく。

目指す姿（取組の方向性）

（１）本物を体感できる体験型事業の展開（リビングヘリテージに基づいた文化観光の推進）

明治から続き今も活用されている芝居小屋「八千代座」、木造の伝統工法で再現された「さくら湯」、市民の想いで繋げ造り続けられている「山鹿灯籠」など、山鹿市内には現在「本物」が息づく文化資源が集積している。本計画では、滞在することで得られる価値や想いが直接観光客に伝わるような体験型事業を行う。

（２）地域住民と事業者による観光振興がもたらす山鹿文化の継承と地域活性化

地域住民と事業者が主体となって観光振興に取り組むことにより、地域活性化や経済活性化が図られるとともに、若い世代にも山鹿地域の文化資源に対する誇りと愛着を広げ、表面的ではない山鹿文化の価値の理解と継承につなげる。

（３）各拠点施設の磨き上げと二次交通の充実による回遊性の向上

「湯町音夜」のコンセプトのもとに各拠点施設の価値を磨き上げるとともに、二次交通を充実させて回遊を促し、交流人口を増加させる。

取組強化事項１ 拠点施設の展示解説の魅力向上

【課題①②関連】

山鹿の湯町文化が来訪者に解りやすく伝わるよう、また地域の文化に対する理解が深まるよう各拠点施設の魅力を向上させ、来訪者の増加及び回遊促進に繋げる。

- ・大宮神社—山鹿灯籠民芸館との差別化を図り、山鹿灯籠の起源や奉納の歴史、それらの伝統が伝承されている点などをパネル、映像技術を活用して分かりやすく解説する。なお、併設の燈籠殿では直近の山鹿灯籠まつりの「上がり燈籠」で奉納された灯籠を展示・紹介しているが、山鹿灯籠の細部まで見学でき、紙工芸作品としての価値や魅力がさらに伝わるよう、館内の照明や背景など展示環境を向上させる整備を行う。
- ・さくら湯—日本初の温泉番付にも名前を残す山鹿温泉の象徴であるさくら湯。肥後細川家や宮本武蔵との

歴史、愛媛県道後温泉の棟梁による改修や道後温泉本館との類似点等、山鹿温泉とさくら湯の歴史を動画やパネル等で紹介する。

- ・ **山鹿灯籠民芸館**—大宮神社の灯籠殿との差別化を図り、山鹿灯籠の制作職人（灯籠師）の制作技術を伝えることに重点を置き、解説パネルの充実化を図る。また、歴代灯籠師の代表的な作品の3Dアーカイブ化を行い、画面上での閲覧を行う。
- ・ **八千代座**—115年にわたり、いまなお山鹿の芸能・娯楽など大衆文化を支え続ける芝居小屋、八千代座。この芝居小屋の魅力を伝えるため、解説パネルを充実させるとともに、管理資料館の展示内容を更新する。また、この舞台上にAR技術を使って、山鹿灯籠踊り保存会による「山鹿灯籠踊り」の鑑賞機会を提供する。

取組強化事項2 解説機能の強化とインバウンド受入れ環境整備

【課題①②⑤関連】

取組強化事項1に加えて施設の紹介や解説の多言語化を図り、インバウンドの受入れ環境を整備する。

- (1) 観光庁指針「HOWTO 多言語解説文整備」に沿った施設の解説文や案内表示の多言語化をはじめ、ICTやAI技術を活用した多言語対応機器の導入による多言語対応、キャッシュレス環境の充実などを進める。
- (2) 特設ホームページの開設やSNSにより、湯町音夜文化のストーリーのほか地域の情報など、統一的な情報も併せて発信する。

取組強化事項3 体験交流コンテンツの充実と合わせた滞在・周遊観光の整備

【課題①④関連】

文化観光資源を活用した体験コンテンツを充実させ、市内の回遊を促し、滞在時間の延長を図る。

- (1) 山鹿市には、その魅力的な地域文化である「山鹿灯籠」を深く紹介するガイドツアー「山鹿灯籠の道」がある。このツアーは、山鹿市地域振興公社と山鹿市旅先案内人の会（市民観光ガイドの会）が連携して普及に取り組んでいる。このツアーが、本計画の4つの拠点施設を結ぶルートを含むことに着目し、近年増加するインバウンド観光客を意識したネーミングとして「灯籠の道（TO-ROAD）」とリブランディングする。P16で提示した新しいターゲットを取り込むため、ニーズに合わせた価値の再構築を行い、SNSを活用し誘客を図る。各拠点施設の役割を再整理するとともに、山鹿の文化観光を代表する新たな文化体験・交流コンテンツをターゲットのニーズに合わせ整備し山鹿ファンを定着させることで、観光客の宿泊・滞在時間・消費行動の増加を図る。

- ・ **大宮神社**—上がり燈籠の展示だけでなく、様々な神様をお祀りしている特徴を活かし、「様々な御利益のある神社」として紹介するとともに、日本古来の伝統的建築物である神社とその神秘性を表現するようなライトアップイベントを新たな夜のコンテンツとして開催する。
- ・ **さくら湯**—「日本初の温泉番付に” 諸病に良し” と紹介される名湯・山鹿温泉は美人湯としても名高く、その滑らかな泉質の温泉に浸かれれば、その湯音も含め山鹿湯町の風情を感じることができる」と温泉の特長をうたった入湯体験を促す。夜12時まで営業する”湯町音夜”の象徴と位置付ける。
- ・ **山鹿灯籠民芸館**—施設内の別館において灯籠職人の指導による山鹿灯籠振興会監修の「制作キット」を用いた体験ワークショップを行う。また新たな夜のコンテンツとしてライトアップイベントを開催する。
- ・ **八千代座**—毎週土・日・月曜に各1回開催している「山鹿灯籠踊り定期公演」は、八千代座で山鹿灯籠踊りを鑑賞できる山鹿市の人気観光コンテンツとして定着しつつあるが、今回さらに、AR技術を使って、いつでも八千代座の舞台上に灯籠踊りが再現される体験コンテンツを導入する。また新たな夜のコンテンツとしてライトアップイベントを開催する。

- (2) 宿泊者数の増加につながるよう、各拠点施設の夜間帯を活用する観光コンテンツを造成する。また、中心市街地から離れた平山温泉や菊鹿温泉で地元のお酒・食材を楽しみながら、その土地の文

化・歴史に触れるガストロノミーツーリズムを開催する。

- ・山鹿の日本酒・ワイン・ウイスキー・ビールを活用したコンテンツ（例. 飲み比べプラン）
- ・近隣の平山温泉と史跡を絡めた8～10キロの距離を歩くガストロノミーツーリズム

(3) 芸能公演と地元の食文化を一度に楽しめる文化体験イベントを通年行うことにより、観光需要の平準化を図る。

- ・各観光拠点施設内で文化イベントを行い、そこに隣接する広場などで山鹿産の食材を使ったオーダブル、お酒やお茶、和菓のスイーツなどの山鹿の食文化を楽しめる屋台を開催する。
- ・夜に特化した文化イベントや朝市を開催して、旅行滞在目的の造成と消費額の増大に繋げる。

(4) 拠点施設見学の相互割引や共通入場券、街道散策ツアー、アートのスポットを造成し、地域内の回遊を促す。

- ・拠点施設のうち、現在は八千代座と山鹿灯籠民芸館の共通入館券のみを販売しているが、新たに4拠点施設へ拡大した相互割引や共通入館券を販売する。
- ・山鹿出身や山鹿と所縁のある方の意見をもらい、山鹿に直接来訪したからこそ知ることのできる情報や穴場など、山鹿の価値を楽しめる「豊前街道そぞろ歩きツアー」を造成する。さらに、山鹿の飲食店も紹介し、滞在時間延長を促す。
- ・山鹿の新しいアートのスポットを創出し、今まで集客できなかった客層へのアプローチを図る。閲覧時間の制限されない展示型のアートを山鹿市在住のアーティスト達と豊前街道沿いや空きスペースに展示することで、平時での観光スポットの創出に加え、山鹿市民の文化鑑賞の機会創出につながる。

(5) 空港や新幹線等の主要交通拠点から山鹿市への二次交通の充実を図る。また、マイクロモビリティを地域内に初導入し、利用者が安全で快適に移動できる新たな環境整備を行う。

- ・空港や新幹線等からの二次交通導入の議論を活発化させ、山鹿地域にあった交通計画の構築を行う。

「マイクロモビリティの導入の説明」

今回4つの拠点施設を含む「灯籠の道 (TO-ROAD)」は片道約1.2キロ。街中の豊前街道ルートを足すと約1.8キロとなるが、そのほとんどが坂道のため徒歩での周遊にはマイナスの影響が懸念される。その問題解消と地域での新たな試みとして、性別を問わず、高齢、初心者でも安全に利用できる自立型電動三輪車などのマイクロモビリティを導入し改善を図る。さらに、かつての山鹿温泉鉄道(鹿本鉄道)の歴史を今に残す線路跡が、菊池川流域を含めた自転車歩行者専用道路として整備されているため、その専用道路への乗り入れ可能な車両(特定原付等)を導入することにより、街中の移動手段に限定されない新たな利用ニーズの開拓も図る。

取組強化事項4 情報発信の強化

【課題③⑤関連】

分かりやすく、閲覧者の関心を引き視覚的に楽しめる多言語対応のホームページ、若年層が情報収集に使うことが多いSNSを活用した発信の拡充など情報発信を強化する。

(1) 新しい価値である「湯町音夜」を全国に発信するため、ホームページやSNS、観光リーフレット等を制作し国内外へプロモーションを展開する。

(2) 現在でも山鹿灯籠まつりに関しては、実行委員会において報道機関への情報提供や旅行代理店への案内、インスタグラムでの情報掲載をはじめ市外、県外でのPRを行っている。これを通年、すでに訪日外国人を含め多くの来訪者がある博多や熊本城、さらに交通機関の要である熊本駅、阿蘇くまもと空港、博多駅、福岡空港にて山鹿への来訪の動機となりうるプロモーション活動を行い、観光客の流入増加を図るとともに、計画地域内での周遊を促進する。



山鹿市を舞台に令和6年に制作され、熊本市のミニシアターで先行上映された映画「骨なし灯籠」は作品の素晴らしさが反響を呼び、異例の5カ月に渡るロングラン上映となり話題となった。また、海外での映画祭にも出品され高い評価を得るなど、その作品としての価値も証明した。その後は神戸や愛知でも上映され、今年5月から6月にかけては都内でも上映された。

この映画は観光誘致目的の作品ではないが、そこに映し出される映像には、宿場町として栄えた湯町の町並みや山鹿の人々の暮らしをそのままに伝えており、この作品を実際に観た観客の中から、遠方の方を含め、実際に山鹿を来訪する方々が後を絶たない。

この作品の主人公が山鹿灯籠を制作する職人「灯籠師」であることや、随所に山鹿灯籠の魅力を伝える作品でもあるため、今後、山鹿の魅力を発信する中で活用を検討する。

4-4. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

各文化観光拠点施設において「本物を体感できる」施設としての磨き上げを行い、さらに「日本遺産（米作り、二千年にわたる大地の記憶）」に示される当地域の歴史的背景とも結びつけながら、食、芸能、歴史など山鹿市内に点在する文化観光資源との連携を図る。これにより来訪者の山鹿滞在時間が延び、宿泊にもつながることで観光消費額が増加する。来訪者の消費行動は文化拠点施設のみならず、宿泊施設や地元商店に關しても高い経済効果をもたらす。

また、菊池川流域日本遺産構成文化財の祭礼、食文化、伝統芸能などを、日本遺産構成自治体である玉名市や菊池市、和水町と連携して発信・体験化することで、広域的な回遊と長期滞在を促す観光モデルの構築が可能となる。

このことにより、山鹿市民自身が山鹿の文化・観光価値に改めて着目し、そこに関与することへの喜びと誇りを感じるようになる。また高い経済効果は文化拠点施設の自力でのさらなる磨き上げ、ワイナリーやウイスキー醸造所の新設にあるような新たな設備投資や新規店舗の出店、新商品の開発につながる。新商品の販売により、文化観光事業者の運営基盤を安定させる。

社会活動が活発になることで灯籠踊りの踊り手・地方や灯籠製作者などの文化事業の担い手が増え、山鹿の文化の継承と広がりにつながる。



八千代座での山鹿灯籠踊り



山鹿産のオードブル



お酒を飲みながら文化体験

これらの経済効果の広がりを受け、さらなる取組として、地域に点在する温泉と文化を体験できる中心地域、そして地酒と地元の厳選食材を使ったペアリングディナーなど、様々な観光コンテンツを組み合わせ山鹿温泉の「夜の楽しみ方」を高付加価値化し、観光客の満足度と滞在時間をさらに向上させる。



さくら湯での山鹿市民の社会人寄席



神事・上がり灯籠



八千代座での歌舞伎公演

非日常であった文化体験を日常的に文化体感できる取組の強化、自らが住み暮らす山鹿の文化の理解を深めるとともに、文化の担い手が育つ仕組みづくりを行うことで山鹿の強みを高める。



豊前街道・千代の園の日本酒



平山温泉・自然の中の露天風呂



電動マイクロモビリティの活用

また、現在では観光に直接的に結びついていない古墳や遺跡を将来的に山鹿の新しい観光コンテンツとして育てていき、さらなる滞在時間延長のコンテンツとして醸成していく。



国指定・弁慶ヶ穴古墳



熊本県立装飾古墳館（設計・安藤忠雄）



方保田東原遺跡

5. 目標

目標①：観光入込客数（国内）の増加（課題①・③取組強化事項１・２・４）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） 文化観光拠点施設（八千代座、さくら湯、灯籠民芸館、大宮神社燈籠殿）の入場者数（国内）の合計とする。令和6年度（2024年）の実績を基準とし、令和11年度（2029）までに10%程度増加するよう目標値を設定する。							
年度	実績		目標				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和11年度	令和12年度
目標値 単位：人（4か所）	234,914	251,978	257,000	262,000	267,100	272,100	277,200
事業１－⑤： 映像技術の活用による拠点施設の魅力増進事業			企画・調整 仕様検討	八千代座に関するコンテンツ作成、公開	灯籠民芸館に関するコンテンツ作成、公開	さくら湯に関するコンテンツ作成、公開	公開
事業３－②： 文化資源周遊促進事業			共通チケットの発行	共通チケットの発行 スタンプラリー開催	共通チケットの発行 スタンプラリー開催	共通チケットの発行 スタンプラリー開催	共通チケットの発行
事業４－①： 観光客に訴求力のある公式ホームページ開設事業			ホームページ企画・制作 ホームページ公開				
事業４－②： 文化観光拠点施設ホームページ強化事業			コンテンツ作成 広報	コンテンツ作成 広報	コンテンツ作成 多言語化作成 広報	コンテンツ作成 広報	コンテンツ作成 広報
事業４－③： 観光カード設置事業			企画・調整 仕様検討	八千代座に設置	さくら湯に設置		
事業５－①： 大宮神社燈籠殿展示環境改善事業			企画・調整 仕様検討	事業実施			

目標②：外国人観光入込客数の増加（課題②④取組強化事項２・３）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） 文化観光拠点施設（八千代座、さくら湯、灯籠民芸館、大宮神社燈籠殿）の外国人入場者数の延べ人数を目標とする。各施設において目視、必要があればヒアリングにより外国人観光客の入館をカウントする。令和６年度（2024）を基準として、令和１6年度（2034年）までに約２倍の12,400人へ増加させる。							
年度	実績		目標				
	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度	令和１１年度
目標値 単位：人	3,573	6,220	6,800	7,400	8,000	8,700	9,300
事業１－⑥： 解説文等の多言語化及び 多言語対応事業			企画・調整 仕様検討	解説文多言語化 多言語対応	解説文多言語化 多言語対応	解説文多言語化 多言語対応	解説文多言語化 多言語対応
事業２－①： 地域の文化資源と拠点施設への交通利便性向上事業			仕様検討 モビリティの試験運用	モビリティの運用	モビリティの運用	観光タクシーの運用	観光タクシーの運用
事業２－③： キャッシュレス決済整備事業			企画・調整 仕様検討	キャッシュレス化導入・実施	キャッシュレス化実施	キャッシュレス化実施	キャッシュレス化実施
事業３－①： 山鹿の魅力を五感で楽しむナイトタイムエコノミー事業			企画・調整 仕様検討	文化観光拠点施設周辺でのナイトマーケット開催 文化観光拠点施設での夜の屋外公演開催	文化観光拠点施設周辺でのナイトマーケット開催 文化観光拠点施設での夜の屋外公演開催	文化観光拠点施設周辺でのナイトマーケット開催 文化観光拠点施設での夜の屋外公演開催	文化観光拠点施設周辺でのナイトマーケット開催 文化観光拠点施設での夜の屋外公演開催

目標③：満足度の向上（課題①③④取組強化事項１・２・３）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） アンケート調査による各施設満足度で、５段階評価中「５」の回答割合を６０％以上とする。主要観光施設で来訪者に向けアンケートを実施する。							
年度 単位：％	実績		目標				
	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度	令和１１年度
目標値	—	—	50%	50%	55%	55%	60%

事業1―①： 八千代座及び夢小蔵魅力 向上化事業			企画・調整 仕様検討 夢小蔵展示内容の検 討	八千代座の解説パネ ルの作成 夢小蔵展示内容の変 更	公開	公開	公開
事業1―②： さくら湯魅力向上化事業				企画・調整 仕様検討	さくら湯の解説パネ ルの作成 音声ガイド導入 動画作成・放映	公開	公開
事業1―③： 山鹿灯籠民芸館魅力向上 化事業					企画・調整 仕様検討	灯籠民芸館の解説パ ネルの作成 3Dアーカイブ化 展示の充実	公開
事業1―④： 大宮神社燈籠殿展示解説 充実化事業			企画・調整 仕様検討	大宮神社の解説パネ ルの作成、動画放映 多言語解説パネルの 設置	公開	公開	公開
事業2―②： 文化観光施設内誘導サイ ン等整備事業			企画・調整 仕様検討	灯籠民芸館の誘導サイ ン等の整備	さくら湯の誘導サイ ン等の整備	八千代座の誘導サイ ン等の整備	
事業5―②： 山鹿灯籠民芸館灯籠展示 棚設置及び照明LED化 事業			企画・調整 仕様検討	展示棚工事	LED化工事		
事業5―③： ライトアップ照明及び屋 外音響整備事業			企画・調整 仕様検討 機器設置	機器設置			
目標④：当計画で新たに造成する体験交流コンテンツの参加者数（課題①④ 取組強化事項3）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法）本計画による目標を新しく造成する体験プログラムの参加者数とする。 令和11年度までに、文化観光資源を活用した体験コンテンツの参加者数2,100人（令和7年度目標値の7倍）、10年後の令和16年度（2034年）には令和7年度 目標値の17倍の5,100人を目指す。主催者による実績者数から算出する。							
年度 単位：人	実績		目標				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
目標値	—	—	300	1,000	1,500	1,800	2,100

事業３－③： 豊前街道を活かしたそぞろ歩きコース造成事業			企画・調整 仕様検討	コースの作成 広報	コースの作成 広報	コースの作成 広報	
事業３－④： アートのスポット造成による新しい魅力づくり事業			事業開催	事業開催	事業開催	事業開催	事業開催
事業３－⑤ 地域を活用した賑わいづくり事業			事業開催	事業開催	事業開催	事業開催	事業開催

6. 目標の達成状況の評価

本計画は「山鹿市文化観光推進協議会」(P.1)において、計画、実行、点検・評価、改善といった一連のPDCA サイクルに基づき、個別事業の進捗状況と計画全体の成果(数値指標)の両面から毎年度点検・評価を適宜行いながら、改善に向けて、その結果を以降の事業に反映していく。

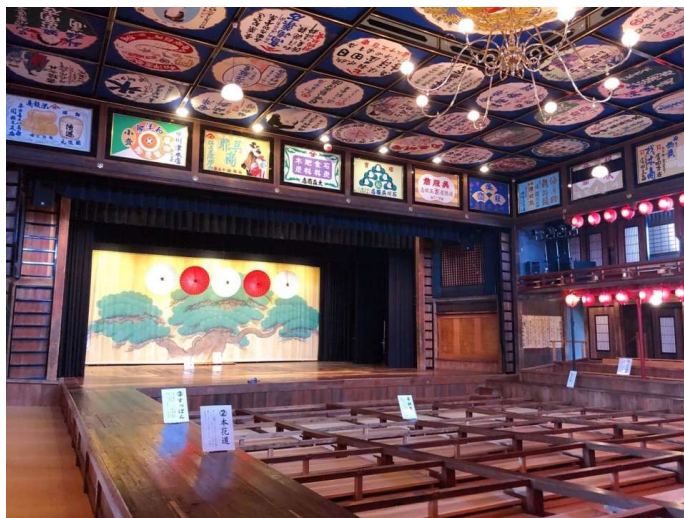
7. 中核とする文化観光拠点施設

文化観光拠点施設名 八千代座

主要な文化資源

重要文化財の八千代座は、江戸時代後期の様式を色濃く残した芝居小屋である。同じ重要文化財に指定される芝居小屋の旧金毘羅大芝居（通称「金丸座」）、旧呉羽座（愛知県犬山市の明治村）、旧広瀬座（福島県福島市の民家村）、康楽館（秋田県小坂町）と違い、移築されることなく建築当時の場所に現存している。また、小屋本体だけでなく、東西の通用門、庭園、池、稻荷社、東西の便所、火鉢置き場、旧組合事務所等の諸施設（市指定の有形文化財「八千代座附属施設」）が残っており、芝居小屋全体の施設、構えが保存されている唯一の小屋である。

平成8年（1996）度～平成13年（2001）度にかけて、国と熊本県の補助を受けて半解体保存修理工事を行い、大正時代の姿に復原した。工事に併せて照明や音響等の設備を新調したことから、現代的な市民の発表会から歌舞伎まで多彩な公演が開催されている。



八千代座内観



八千代座の舞台装置「奈落」

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

指定管理者である（一財）山鹿市地域振興公社の職員が施設内をガイドしながら案内し、八千代座の歴史や建物の魅力を伝えている。また、舞台袖で八千代座の紹介映像をプロジェクターで放映し、見学者がいつでも鑑賞し、八千代座について学べるようにしている。このほか、八千代座に併設された夢小蔵では八千代座の歴史や建築に関する解説のほか、坂東玉三郎丈が八千代座公演で使用した衣装をはじめ、公演ポスターや過去の公演で使用されていた小道具などを展示している。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

国土交通省九州地方整備局が作成した「八千代座バーチャルツアー」により重要文化財八千代座の魅力を、360度視点で体感できるようになっている。

https://www.qsr.mlit.go.jp/n-park/6_kyushu_rekimachi_DX/yamaga_DX/yamaga.html

山鹿市地域振興公社作成のホームページによる解説、紹介。

https://yamaga.site/?page_id=2

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

英語、中国語（繁体字）、韓国語を表記した八千代座パンフレットを配布している。また、英語、韓国語、中国語（簡体字、繁体字）、スペイン語、ポルトガル語に対応したホームページを開設している。

本計画における取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

八千代座の各所において、解説パネルを設置し、見学者に芝居小屋内の各施設の機能について理解を促す。併せて、管理資料館内の解説パネルを劣化の進んでいるものから優先的に更新し、来訪者の理解が深まるような内容へ変えていく。また、必要に応じてホームページの改修を行う。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

AR技術等を利用し、山鹿灯籠踊りの舞台披露をスマートフォンやタブレット上で再現することで、八千代座の舞台利用の様子や山鹿市の伝統芸能の鑑賞機会を常時提供する。このほか、各所の解説パネルに表示したQRコードを読み込むことで、廻り舞台やセリなどの芝居小屋ならではの舞台演出の使用例について解説した動画や音声、画像などを表示し、直感的な理解を促す。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」に沿って、既存のパンフレットやリーフレット等の記載事項等に関する検討を行い、日本の文化や歴史を知らない人でも理解できるような解説内容とする。また動画も活用し、直感的に理解できる解説手段も採用する。併せて、日本語ガイドでも外国人へ対応できるように同時翻訳機能を有した機器を導入し、外国人からの質問にも対応する。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

観光、商工、文化、自治会、婦人会などからなる八千代座審議会で多様な関係者と連携し、八千代座の管理運営に関する審議を定期的に行っている。

また、八千代座が菊池川流域日本遺産の構成文化財の一つであることから、関係市町の商工・観光・まちづくり団体等からなる菊池川流域日本遺産協議会においても連携を取っている。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

指定管理者（（一財）山鹿市地域振興公社）による月例報告・年次報告によりデータを収集、分析を行っている。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

指定管理者選定期（おおむね5年に1度）に、指定管理者からの提案と市の評価を実施している。

本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

山鹿地域の文化団体やアール・ブリュット団体、地元商店街、地元の学生などと連携し賑わいを創出する芸術祭を行い、それに合わせた旅行商品の造成や、インバウンド向け商品の企画・作成、文化観光としての誘客促進を図る。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

文化観光推進協議会が構成員の情報を集約し、事業効果の分析、本計画の進捗管理や評価などに活かす。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

文化観光推進協議会が事業の方針策定、KPIの設定、本計画の推進管理や評価を行い、評価結果に基づき、各事業の実施主体が改善策等の検討を行い、事業に反映する。

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

観光客の入込客数が落ち込む2月の賑わいづくりとして、その月の毎週金曜日と土曜日に地元商店街及び観光協会が主となり、竹あかりイベントである「山鹿浪漫百華百彩」を開催している。当館の指定管理者である山鹿市地域振興公社も実行委員会に加わり、関連イベントとして八千代座で山鹿灯籠踊りの夜間特別公演を山鹿温泉観光協会と共同開催している。

本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

バス事業者・タクシー事業者と連携し、数か月間行う芸術祭に合わせて旅行商品を開発する。

芸術祭には、文化観光推進事業者を中心に、協力団体である商店街・各観光協会・青年団体等と協働し、賑わいの創出に努める。また、芸術祭以外の時期に開催を予定される文化事業に関しても、協力団体と連携し、様々な文化体験ができる芝居小屋の魅力発信に努める。

文化観光拠点施設名

さくら湯

主要な文化資源

さくら湯は、今から約380年前の細川藩主の御茶屋を基として明治期に大衆浴場として改修された入浴施設で、山鹿温泉のシンボルとなっている。

昭和の高度経済成長期に解体され温泉ビルとなっていたが、平成24年10月に大型の木造建築物で再建された。唐破風のある南北の玄関や十字にクロスした独特の屋根の形、貴賓客が使用した「龍の湯」など、明治期の建築様式を可能な限り再現している。また、温泉資料室ではさくら湯の歴史や山鹿における大衆温泉文化などを紹介している。



さくら湯 正面玄関



龍の湯

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

（一財）山鹿市地域振興公社が指定管理者となり、施設管理以外にさくら湯の歴史の紹介なども行っている。1時間に1度、さくら湯と温泉について2分ほどの館内放送を行うほか、「池の間」と呼ばれるかつての休憩室を再現した場所において、パネルによるさくら湯の紹介を行う。さらに、温泉資料室では、さくら湯の歴史に関するパネルや、以前使われていた湯籠などの入浴道具のほか、かつてのさくら湯の一部となっていた瓦や部材などを展示している。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

山鹿市地域振興公社作成のホームページによる解説、紹介。

https://yamaga.site/?page_id=1548

山鹿市地域振興公社の運営によるインスタグラムで、イベント開催情報のほか、さくら湯の魅力について発信。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

ホームページの多言語化（英語、韓国語、中国語（簡体・繁体）スペイン語、ポルトガル語）を行っているとともに、台湾人向け（繁体字）のさくら湯施設案内のパンフレットを配布。

本計画における取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

温泉資料室に表示されている解説パネルの内容を再検討し、さくら湯の歴史と山鹿温泉の歴史が来訪者に伝わる内容とし、必要に応じてパネルを更新する。また、殿様の湯とされた「龍の湯」の解説機能を高めるため、QRコードを読み込んで解説動画（または画像）を表示する仕組みを講じる。さらに、さくら湯と休憩室の間にある通路の壁にモニターを設置し、今回新たに作成するさくら湯の歴史の解説動画や近隣施設への誘導を促す既存の観光紹介動画を放映する。加えて、必要に応じて既存ホームページの改修を行う。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

温泉資料室の展示品について、QRコードを読み込むことによって、動画や音声、画像などによる解説が表示される仕組みを講じる。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」に沿って、既存のパンフレットやリーフレット等の記載事項等に関する検討を行い、日本の文化や歴史を知らない人でも理解できるような解説内容とする。また動画も活用し、直感的に理解できる解説手段も採用する。併せて、日本語ガイドでも外国人へ対応できるよう同時翻訳機能を有した機器を導入し、外国人からの質問にも対応する。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	
現状の取組	
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築 (一財) 山鹿市地域振興公社では、八千代座、山鹿灯籠民芸館、さくら湯の管理運営を通じ、地域の観光・商業・文化団体との関係を構築している。また、さくら湯開湯イベントやさくら湯敷地内での三味線の演奏会、落語会、地元音楽サークルによるコンサート、茶道、生け花など、地域の文化団体や行政と密着した多種多様な事業を定期的に開催している。 (例) さくら湯敷地内での三味線の演奏会・落語会・音楽のコンサート・茶道・生け花や絵画鑑賞会など ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析 施設利用者数に係る報告（月報・年報） ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立 実績を踏まえた次年度事業計画の策定	
本計画における取組	
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築 ナイトタイムエコノミーを活用した事業構築を目指すため、飲食店組合、商店街、観光協会、タクシー事業者と連携し、本施設を起点として豊前街道周辺への回遊性を向上させる。 ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析 文化観光推進協議会が構成員の情報を集約し、事業効果の分析、本計画の進捗管理や評価などに活かす。 ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立 文化観光推進協議会が事業の方針策定、KPIの設定、本計画の推進管理や評価を行い、評価結果に基づき、各事業の実施主体が改善策等の検討を行い、事業に反映する。	
施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	
現状の取組	
・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 山鹿市及び周辺町内会との共催による「山鹿温泉祭」のほか、商工会議所との共催で「さくら湯開湯まつり」を開催している。	
本計画における取組	
・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 ナイトタイムエコノミーを活用した事業構築を目指すため、飲食店組合、商店街、観光協会、タクシー事業者と連携し、本施設を起点として豊前街道周辺への回遊性を向上させる。 また、本施設を高付加価値な旅行商品にも活用し、深みのある文化体験の創出に努める。	
文化観光拠点施設名	山鹿灯籠民芸館
主要な文化資源	
大正14年(1925)に安田銀行山鹿支店として建てられた、山鹿市最古のコンクリート造り建築物である。その後、山鹿市が譲り受け山鹿灯籠などの民芸品を展示する施設として利用している。外観は重厚なロマネスク様式の建築物で、平成14年に国の有形文化財に登録されている。 内部で展示している「山鹿灯籠」は手すきの和紙とわずかな糊だけで作られる工芸品で、室町時代から受け継がれているとされている。神殿造りや城造りなどの建物のほか、矢筒、鳥かごなども作る。平成25年に国の伝統的工芸品に指定されている。	



山鹿灯籠民芸館



山鹿灯籠民芸館 内観

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）
（一財）山鹿市地域振興公社が指定管理者となり、施設の管理のほか、「山鹿灯籠」の展示や解説動画の上映を通じて、山鹿灯籠の歴史や制作技術を紹介している。また、土日祝日を中心にボランティアガイドが待機しており、見学者の要望に応じて館内の解説を行っている。別館では、灯籠師による制作実演も見学できる。
- ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）
山鹿市地域振興公社作成のホームページによる解説、紹介。
https://yamaga.site/?page_id=1550
- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）
ホームページの多言語化（英語、韓国語、中国語（簡体・繁体）スペイン語、ポルトガル語）
山鹿灯籠まつりの紹介動画（外国語の字幕対応）

本計画における取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

当館を「灯籠師の制作技術を伝える場」と位置付け、解説パネルの内容を山鹿灯籠の細やかさ、精巧さと灯籠師の技術に焦点を当てたものに変更する。また、スペースの都合で当館に収められていない過去の作品を一堂に収蔵展示する棚を設置し、「量」で見学者に山鹿灯籠の歴史と対象物のバリエーションの豊富さを伝える。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

歴代の灯籠師の中で、「山鹿灯籠中興の祖」、「伝説の灯籠師」として崇められる中島灯籠師の作品を中心に、過去の作品の中でも特に灯籠師の技術が際立った作品を選び、それらを3D スキャンしアーカイブ化を図る。さらにその3D 画像をタッチパネルで多方向から閲覧できるようにする。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」に沿って、既存のパンフレットやリーフレット等の記載事項等に関する検討を行い、日本の文化や歴史を知らない人でも理解できるような解説内容とする。また動画も活用し、直感的に理解できる解説手段も採用する。併せて、日本語ガイドでも外国人へ対応できるよう同時翻訳機能を有した機器を導入し、外国人からの質問にも対応する。

施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

（一財）山鹿市地域振興公社では、八千代座、山鹿灯籠民芸館、さくら湯の管理運営を通じ、地域の観光・商業・文化団体との関係を構築している。また、山鹿灯籠民芸館リニューアル事業など、地域・行政と密着した事業を展開している。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

施設見学者数に係る報告（月報・年報）

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びK P I の設定・PDCAサイクルの確立

実績等を踏まえた次年度事業計画の策定

本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

山鹿地域の新しい工芸（KOGEI）の情報発信の場として、ものづくりの団体・職人と文化観光推進協議会が連携する。また、インバウンド向けの旅行商品として高付加価値な体験を提供する。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

文化観光推進協議会が構成員の情報を集約し、事業効果の分析、本計画の進捗管理や評価などに活かす。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びK P I の設定・PDCAサイクルの確立

文化観光推進協議会が事業の方針策定、K P I の設定、本計画の推進管理や評価を行い、評価結果に基づき、各事業の実施主体が改善策等の検討を行い、事業に反映する。

施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

観光客の入込客数が落ち込む2月の賑わいづくりとして、その月の毎週金曜日と土曜日に地元商店街及び観光協会が主となり、竹あかりイベント「山鹿浪漫百華百彩」を開催している。当館の指定管理者である山鹿市地域振興公社も実行委員会に加盟し、期間中は開館時間を夜間まで延長している。

本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

ナイトタイムエコノミーを活用した事業構築を目指すため、飲食店組合、商店街、観光協会、タクシー事業者と連携し、本施設を含めた豊前街道周辺への回遊性を向上させる。

文化観光拠点施設名	大宮神社
-----------	------

主要な文化資源

景行天皇が九州を巡行した際の行宮（仮御所）跡地に景行天皇を祀ったと伝わる神社である。この例大祭は8月16日に開催される山鹿灯籠まつりであり、境内にある燈籠殿には祭礼で奉納された山鹿灯籠約30基が、御神宝「三十六歌仙絵」パネルとともに展示されている。

また、神社本殿の裏手にはその数九州一ともいわれる49基もの猿田彦大神石碑と様々な境内社が並び、一巡すると多くのご利益を受けることができる。このほか、樹齢400年を超えるとされる御神木のイチイガシがその威厳を誇っている。



大宮神社



燈籠殿 内観

主要な文化資源についての解説・紹介の状況
現状の取組 ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号） 山鹿灯籠と灯籠まつりに関する簡便なパネルを展示（英文併記）。併せて山鹿灯籠の作品に関する説明書きを表示している。このほか、パンフレットの作成（英文を含む）、山鹿灯籠の紹介や境内案内の看板を設置（英文を含む） ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号） ホームページによる解説、紹介。外国語未対応。 https://oomiya.pigboat.jp/ また、インスタグラムで神社の魅力や祭礼関連情報を発信している。 ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号） 大宮神社の案内板（英語・中国語・韓国語）のほか、山鹿灯籠の紹介の看板（英文併記）を設置している。山鹿灯籠のパンフレット（英文表記）を配布。
本計画における取組 ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号） 解説パネルの説明テーマを山鹿灯籠の起源や山鹿灯籠まつりの伝承に絞り、来訪者が理解しやすいような内容に更新する。また、必要に応じてホームページの改修を行う。 ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号） デジタルサイネージ等を利用し、既存の動画のほか音声や画像などを加えた解説を図る。 ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号） 観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」に沿って、既存のパンフレットやリーフレット等の記載事項等に関する検討を行い、日本の文化や歴史を知らない人でも理解できるような解説内容とする。また動画も活用し、直感的に理解できる解説手段も採用する。併せて、日本語ガイドでも外国人へ対応できるよう同時翻訳機能を有した機器を導入し、外国人からの質問にも対応する。
施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携
現状の取組 ・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築 毎年8月の山鹿灯籠まつり開催に際し、山鹿市、山鹿商工会議所、山鹿温泉観光協会、町内会をはじめとする関係団体で実行委員会を組織しており、大宮神社もその会員である。 まつり当日は、開始時と終了時に山鹿灯籠踊り保存会による灯籠踊りが神前にて奉納されるほか、16日深夜には600年の伝統を持つとされる「上がり燈籠」という神事が執り行われ、新たに制作された山鹿灯籠が町内会・企業・団体から奉納される。奉納された灯籠は、燈籠殿において次のまつりまで1年間収蔵・公開される。 ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析 施設見学者数に係る報告（月報・年報） ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立 実績等を踏まえた次年度事業計画の策定
本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築 地域の文化団体が神楽や伝統芸能を披露し、より文化を深掘した事業を構築する。また、インバウンド向けの旅行商品として高付加価値な体験を提供する。 ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析 文化観光推進協議会が構成団体の情報を共有し、事業効果の分析、本計画の進捗管理や評価などに活かす。 ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立 文化観光推進協議会が事業の方針策定、KPIの設定、本計画の推進管理や評価を行い、評価結果に基づき、各事業の実施主体が改善策等の検討を行い、事業に反映する。
施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携
現状の取組
・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 灯籠まつりの際に、青年会議所による出店やイベントが開催される。
本計画における取組
・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施 文化観光推進協議会が主体となり地元文化団体と連携し、ナイトタイムエコノミー事業などの新しい価値の創出に取組む。 高付加価値な旅行商品造成時には電動マイクロモビリティや観光タクシーなどと連携し、旅行者にストレスのない交通アクセスに取組む。

8. 地域文化観光推進事業

8-1. 事業の内容

8-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業	
(事業番号1ー①)	
事業名	八千代座及び夢小蔵魅力向上化事業
事業内容	芝居小屋としての八千代座や八千代座に関する資料（小道具・史料など）の価値や魅力をより多くの人々に伝えるよう、解説や展示方法の魅力向上に取り組む。 【実施事項】 ○展示及び解説パネルの充実化 夢小蔵（八千代座管理資料館）の展示について、八千代座に関する新しい情報を取り入れつつ、より分かりやすい内容となるよう見直しを行う。併せて、管理資料館内の解説パネルを劣化の進んでいるものから優先的に更新し、来訪者の理解が深まるような内容へ変えていく。 八千代座においては、芝居小屋内の各施設（廻り舞台、奈落など）に解説パネルを設置し、見学者に芝居小屋内の各施設の機能について理解を促す。また、芝居小屋内各施設等の使用例を動画で紹介し、そのQRコードのリンクをパネルに表示する。 なお、パネルにはインバウンド向けに観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」沿った解説のQRコードを表示する。（多言語化した解説文章は令和5年度観光庁事業で作成した説明文を利用する。それ以外の多言語化は事業番号1ー⑥で実施）
実施主体	山鹿市
実施時期	令和8年
継続見込	設置後、必要に応じて内容や表記を更新
アウトプット	来訪者の理解度向上

目標	
必要資金 調達方法	2.1 百万円（内訳：0.7 百万円（自己資金）1.4 百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する
(事業番号 1—②)	
事業名	さくら湯魅力向上化事業
事業内容	山鹿温泉の象徴であるさくら湯の歴史や温泉文化を多くの人々に伝えるよう、解説や展示方法の魅力向上に取り組む。また、山鹿市の中心部に位置することから、周辺周遊に向けた情報発信基地としての役割を持たせる。 【実施事項】 ○解説パネルの充実化 温泉資料室に表示されている解説パネルの内容を再検討し、さくら湯の歴史と山鹿温泉の歴史が来訪者に伝わる内容とし、必要に応じてパネルを更新する。 なお、パネルにはインバウンド向けに観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」沿った多言語解説の QR コードを表示する。（多言語化した解説文章は令和 5 年度観光庁事業で作成した説明文を利用する。それ以外の多言語化は事業番号 1—⑥で実施） ○入湯者へのさくら湯の歴史等音声ガイド 観光客の入湯の多い日中の時間帯に、さくら湯の歴史や建物の特徴のほか、山鹿温泉の魅力、さらに温泉資料室を含めた周辺の文化観光拠点施設の情報を伝える音声ガイドを放送する。 ○モニターによるさくら湯と周辺施設の説明 さくら湯と休憩室の間にある通路の壁にモニターを設置し、さくら湯の歴史を解説した動画や近隣施設への誘導を促す動画を放映する。
実施主体	山鹿市
実施時期	令和 9 年
継続見込	設置後、必要に応じて内容や表記を更新
アウトプット 目標	来訪者の理解度向上
必要資金 調達方法	3.9 百万円（内訳：1.3 百万円（自己資金）2.6 百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する
(事業番号 1—③)	
事業名	山鹿灯籠民芸館魅力向上化事業
事業内容	国の伝統的工芸品として指定されている山鹿灯籠の魅力とその制作職人である灯籠師の制作技術を伝えるよう、展示解説等を見直し、魅力を向上化させる。 【実施事項】 ○解説パネルの充実化 山鹿灯籠の細やかさ、精巧さと灯籠師の技術に焦点を当てた解説パネルに変更する。 なお、パネルにはインバウンド向けに観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」沿った多言語解説の QR コードを表示する。（多言語化した解説文章は令和 5 年度観光庁事業で作成した説明文を利用する。それ以外の多言語化は事業番号 1—⑥で実施） ○解説動画の放映 灯籠師の制作技術や灯籠の制作過程に焦点を当てた既存の動画を、プロジェクターを通した大画面で放映する。 ○3D アーカイブ化とタッチパネルでの山鹿灯籠の閲覧 灯籠師の技術が集約された優れた作品を厳選し、3D スキャンでアーカイブ化する。さらにそのデータを見学者がタッチパネルでいろいろな角度から観察できるようにする。

	○展示の充実 スペースの都合で当館に収められていない過去の作品を、一收藏展示する棚を設置し、山鹿灯籠の歴史と対象物のバリエーションの豊富さを伝える。(棚設置は事業番号5―②で実施)
実施主体	山鹿市
実施時期	令和10年
継続見込	必要に応じて自主財源によるデジタルアーカイブ化を継続
アウトプット目標	来訪者の理解度向上
必要資金調達方法	3.5百万円 (内訳: 1.2百万円(自己資金) 2.3百万(文化観光推進事業補助金(文化庁))) ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号1―④)

事業名	大宮神社灯籠殿展示解説充実化事業
事業内容	毎年8月16日の例大祭である山鹿灯籠まつりの「上がり灯籠」と呼ばれる神事において、氏子などから毎年約30基が奉納される山鹿灯籠を一堂に展示する灯籠殿内の展示解説を充実化し、その起源や六百年続く奉納の歴史、連綿と受け継がれる町衆の灯籠奉納にかける思いを来訪者に伝える。 【実施事項】 ○展示解説の充実 山鹿灯籠の起源や六百年続く奉納の歴史、連綿と受け継がれる町衆の灯籠奉納にかける思いをテーマとした解説パネルを新設する。山鹿灯籠が紙だけで制作され、驚くほど軽量であることを直感的に理解できるコーナーを設ける。 併せて、これまでに作成している動画(山鹿灯籠まつりや上がり灯籠、さらには山鹿灯籠の歴史や魅力を伝える動画)を放映し、文字だけではなく動画でも解説する。 インバウンド向けに、観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」に沿った解説パネルを作成し、展示する。(多言語化した文章は令和5年度観光庁事業で作成した説明文を利用) 併せて、日本語ガイドでも外国人へ対応できるよう同時翻訳機能を有した機器を導入し、外国人からの質問にも対応する。
実施主体	大宮神社
実施時期	令和8年
継続見込	必要に応じて自主財源による展示内容充実化を継続
アウトプット目標	来訪者の理解度向上
必要資金調達方法	1.5百万円 (内訳: 0.5百万円(自己資金) 1百万(文化観光推進事業補助金(文化庁))) ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号1―⑤)

事業名	映像技術の活用による拠点施設魅力増進事業
事業内容	映像技術等を活用し、各文化観光拠点施設の特長などを直感的に伝える。併せて、同技術により各施設ならではの体験コンテンツを造成し、各施設の魅力を高める。 【実施事項】 ・八千代座においては、芝居小屋内の各施設(回り舞台や奈落など)をARによるガイドダンスとともに使用状況の動画を交えて解説。また舞台上、山鹿の伝統芸能である山鹿灯籠踊りが披露されている様子を、AR技術でスマートフォンやタブレットを通じて見学できるようにする。

	・灯籠民芸館においては、来訪者がモニター上で灯籠踊りの踊り手の衣装（頭に金灯籠を被り浴衣姿）に早変わりする「灯籠娘なりきり体験」を提供。 ・さくら湯においては、復元された殿様の湯である「龍の湯」内で動画による解説（手持ちのスマートフォンでQRコードを通して、解説ページに移動）。温泉資料室の展示資料を、同様の方式で文字や動画で解説し、直感的に伝える。
実施主体	山鹿市
実施時期	令和8年～令和10年
継続見込	計画終了後も、交付金の活用や自主財源による継続を検討
アウトプット目標	来訪者の理解度向上
必要資金調達方法	6.3百万円（内訳：2.1百万円（自己資金）4.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号1－⑥）

事業名	解説文等の多言語化及び多言語対応事業
事業内容	各拠点施設での解説文や案内誘導板の多言語化に際して、観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」に沿って、記載事項等に関する検討を行い、日本の文化や歴史を知らない人でも理解できるような解説内容とする。（令和5年度観光庁事業で作成した説明文も利用する。）併せて、日本語ガイドでも外国人へ対応できるよう同時翻訳機能を有した機器を導入し、外国人からの質問にも対応可能な体制を整える。 【実施事項】 ・館内解説文やパンフレット説明文等の多言語化に関して、観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」に沿って、記載内容を改善する。 ・外国人からの各拠点施設の解説や山鹿市の観光に関する質問に対応できるよう、WEBを介した多言語ガイド機器を利用し、満足度を向上させる。
実施主体	山鹿市
実施時期	令和8年～令和11年
継続見込	計画終了後も、入場料や自主財源による継続を検討
アウトプット目標	来訪者の理解度、満足度向上
必要資金調達方法	5.4百万円（内訳：1.8百万円（自己資金）3.6百万（文化財多言語解説整備事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

8-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業

（事業番号2－①）

事業名	地域の文化資源と拠点施設への交通利便性向上事業
事業内容	交通事業者と連携し、拠点施設と文化資源とをつなぐ電動マイクロモビリティの活用を図る。また、イベント等に合わせた臨時バスの運行、高付加価値のための観光タクシーの造成、拠点施設と連携するバス停の整備等により、来訪者の利便性を高める。 【実施事項】 ・電動マイクロモビリティの運行 ・事業の推移と情勢を鑑みて観光タクシーの運行を検討する。
実施主体	やまが文化の芽
実施時期	令和7年～令和11年

継続見込	期間中に体制をブラッシュアップし、文化観光推進事業者による独自催行することで事業を継続する。
アウトプット 目標	来訪者の満足度向上
必要資金 調達方法	13.5百万円（内訳：4.5百万円（自己資金）9百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号2-②）

事業名	文化観光施設内誘導サイン等整備事業
事業内容	多言語に対応した、ユニバーサルデザインの誘導サインを全体で統一し整備する。 【実施事項】 ・各文化観光拠点施設内の誘導看板のデザインを統一化。 ・多言語化、ユニバーサルデザインに対応する。多言語化に関しては観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」沿った形とする。
実施主体	山鹿市
実施時期	令和8年～令和10年
継続見込	継続して維持管理を行う
アウトプット 目標	来訪者の満足度向上
必要資金 調達方法	0.9百万円（内訳：0.3百万円（自己資金）0.6百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号2-③）

事業名	キャッシュレス決済整備事業
事業内容	文化観光拠点施設において、入場料や体験料、グッズ販売などの支払いをキャッシュレス決済化する。 【実施事項】 ・クレジットカード、QRコードなどのキャッシュレス決済に対応する支払方法とする。
実施主体	山鹿市・大宮神社
実施時期	令和8年
継続見込	継続して維持管理を行う
アウトプット 目標	来訪者の満足度向上
必要資金 調達方法	1百万円（内訳：0.4百万円（自己資金）0.6百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

8-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との連携の促進に関する事業

（事業番号3-①）

事業名	山鹿の魅力を感じ楽しむナイトタイムエコノミー事業
事業内容	八千代座イベント開催時や夜公演観劇後に、来訪客、演劇関係者、地域住民などが観劇体験を共有する場をまちなかに設け、豊前街道を周遊させる。具体的には、広場でのナイトマーケット出店のほか、既存店舗（カフェ、バー、スナックなど）との連携により、まちなかに小さな交流の場を多数生み出す。そのことにより、兼ねてから外国人旅行者のニーズとしてある「地元との交流」の場を生み出し、対話を生み出すことも期待できる。また芸術祭と連携し、山鹿に不足しているナイトタイムエコノミーを活性

	化させ新たな市場として開拓することで、山鹿市内事業者の売上促進にもつなげていく。 また、大宮神社開催時には「縁結び」につながる事業を行い、若い世代を取り込む新しい価値観を造成する。(事業番号3-④に関連) 【実施事項】 ・地元の酒蔵を活用した少人数制の限定貸し切り高付加価値プランの作成。 ・山鹿地域での既存店舗と連携し、山鹿地域屋外でのナイトマーケット開催や山鹿の観光拠点周辺でJ A Z Zとお酒を楽しむ機会を創出する。 ・大宮神社の御神木を活用した木札の制作。 ・山鹿市飲食店組合と連携し街中の回遊性を高めるため割引クーポンを発行。
実施主体	八千代座倶楽部・やまが文化の芽
実施時期	令和7年～9年
継続見込	文化観光推進事業者の自主事業として実施
アウトプット 目標	地域の観光事業者と連携したイベントの実施。1回/年以上。 クーポン参加店舗数 15店舗
必要資金 調達方法	5百万円 (内訳:5百万円(自己資金))

(事業番号3-②)

事業名	文化資源周遊促進事業
事業内容	各文化拠点施設の周遊を図るため、共通入場パスポートを販売する。さらに、利用促進のため、4施設(八千代座・山鹿灯籠民芸館・さくら湯・大宮神社)を全て回った利用者には特典を進呈する。(事業番号2-①に関連) 【実施事項】 ・各拠点施設を周遊するパスポート(チケット)を作成する。 ・デジタルリーフレットを作成する。 ・山鹿市が進めている「山鹿市健幸都市宣言」の取組と連動させ、体験での消費カロリーを明示し、楽しみながら健康に繋がることもアピールする。
実施主体	山鹿市地域振興公社・大宮神社
実施時期	令和8年～令和11年
継続見込	自主財原で継続
アウトプット 目標	来館者数の増加
必要資金 調達方法	0.28百万円 (内訳:0.28百万円(自己資金))

(事業番号3-③)

事業名	豊前街道を活かしたそぞろ歩きコース造成事業
事業内容	文化観光施設、周辺飲食、宿泊等をセットで楽しめるコースを造成し、より充実した滞在時間を観光客に提供する。各観光協会にも協力を依頼し、連携を図る。 山鹿“深”発見～DEEPな山鹿を探しに行こう～(事業番号2-①に関連) 【実施事項】 ・豊前街道を軸に「そぞろ歩きコース」を造成する。山鹿にゆかりのある人(市長・芸能人・アーティスト・クリエイター・有識者・若者など)に、観光マップには載らないDEEPな山鹿市をめぐるコースを作る。

	・食、文化・芸術、伝統工芸、歴史、建造物、風景、など、テーマごとにコースを作る。 ・年に1コースずつ追加し、継続性を持たせつつ、最終的にすべてのコースをまとめた「そぞろMAP」を制作、WEB上にアーカイブしながらリーフレットや書籍など記録媒体への展開を図る。 ・参加者の負担は考慮しつつ、滞在時間を拡大できるような所要時間を設定。(数時間～半日など) ・高付加価値プランとして完全予約制で人力車でのそぞろ巡りや、それぞれの箇所にフォトスポットの目印を設置するなどエンターテインメント性を持たせる。 ・和傘や灯籠を模した工作キット、八千代座の天井画をオマージュしたコースターなどそぞろ歩きをすることで得られる付加価値の高いグッズの制作、リピーターや山鹿ファンを増やす取組を行うなど毎年訪れたいくなる環境づくりを醸成する。 ・独自のSNSアカウントを立ち上げ情報を発信しつつ、参加者が自分のアカウントで投稿したくなるイベント(いいね&フォローや#タグキャンペーンなど)を毎年開催。 ・多言語化にも対応する。 ・「山鹿市健幸都市宣言」の取組と連動させ、体験での消費カロリーを明示し、楽しみながら健康に繋がることもアピールする。
実施主体	やまが文化の芽
実施時期	令和8年～令和11年
継続見込	期間中に文化観光推進者と協議し、計画終了後も継続できる仕組みを見出す
アウトプット目標	来訪者の満足度の向上
必要資金調達方法	6百万円 (内訳: 6百万円(自己資金))

(事業番号3-④)

事業名	アートのスポット造成による新しい魅力づくり事業
事業内容	街全体で体感できる芸術祭を行い文化資源の価値を構築する。芸術祭は今まで培ってきた伝統文化や大衆文化である芸術公演に加え、アートによる展示会を数か月間開催し、山鹿地域の歴史・文化を伝える。来訪者に非日常で特別な体験を提供し、高付加価値化にもつなげる。その中で、山鹿滞在の新しい魅力を街中のアートのスポットを造成することにより発信していく。 アートのスポットは、アーティストと地域の方が連携し閲覧時間の制限されない展示スポットを造成する。日常的にアートを共有できる場の創出を行うことで、何もなかった空きスペースを交流の生まれる場所へと変えていく。 山鹿市が掲げている「山鹿市健幸都市宣言」と連携し、山鹿温泉の「身体の癒し」だけでなく、アートを通じた「心の癒し(文化的処方)」を山鹿地域の新しい魅力となるように推進していく。熊本県内で主体的にアール・ブリュット活動されている社会福祉法人愛隣園(山鹿市)と連携し、空きスペースにおけるアール・ブリュットの展示(サテライト展示)のみならず、情報発信のツールとしても活用していく。 芸術祭を通して芸術公演開催の体制が整えられ、そのノウハウが地元で蓄積されていく。必要な設備整備(動画配信等)を行うことで6年目以降の完全自主開催が見込まれる。(事業番号3-①に関連)



山鹿市在住のアーティスト松本寛庸氏の作品（アール・ブリュット）

【実施事項】

- ・国指定重要文化財・八千代座での芸術公演（歴史、文化を取り入れた演劇公演）を開催する。
- ・夜の時間を活用した公演や八千代座独自のコンテンツ（バックヤードツアー）を造成する。
- ・動画配信を行い、新たな来訪の契機にも繋げる。
- ・公演後に、観客と地域住民が一緒に参加する交流会を開催する。
- ・交通とセットになった観劇ツアーの造成（運転手ガイド）を行う。
- ・芸術祭を通して山鹿でのアート活動を定着化させるため、拠点施設近隣の空きスペースを活用してアーティスト作品のサテライト展示（2か月間程度）やライブパフォーマンスを行いアートのスポットの造成を行う。
- ・芸術祭では、山鹿地域の担い手を育成する目的とした文化を学ぶ研修会や文化的処方の講演会を開催する。
- ・町と文化芸術と福祉が三位一体となり、アール・ブリュットを通じて人の多様性や可能性に出会うアートイベントを行う。

実施主体	八千代座倶楽部・やまが文化の芽
実施時期	令和7年～令和11年
継続見込	芸術祭の事業収入・グッズ販売収益・協賛金にて継続見込み
アウトプット目標	アートのスポットの造成1カ所/年以上
必要資金調達方法	21.5百万円（内訳：7.17百万円（自己資金）14.33百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号3-⑤）

事業名	地域を活用した賑わいづくり事業
事業内容	山鹿の歴史、文化、自然を体感できる体験型コンテンツの造成、販売を行う。その一環として山鹿の新しい事業モデルとなりうる体験型コンテンツを造成する。 地域団体、事業者と連携したイベント事業の開催、地域の伝統芸能の紹介、後継者育成、地域団体等への施設設備の貸出など旅館・ホテル・飲食店組合等と連携した事業を実施する。 また回遊性を高めるためYU・MEGURIST（ユ・メグリスト）という複数の温泉施設を回遊する湯めぐりサービスを立ち上げ、入湯した施設の数に応じてオリジナルグッズを進呈する。サービス当初は地域を限定し、状況を見ながら徐々に拡大し山鹿の名物として認知を高めていく。 【実施事項】

	・山鹿市の文化・歴史・自然を体感できる地域の体験型コンテンツを造成するため、市内の事業者や団体とワークショップを重ね、地域の素材の掘り起こし、磨き上げを行う。 ・ONSENガストロバー機構と連携し地元のお酒・産物・温泉を活用した温泉ガストロノミーを開催する。 ・ANAあきんど株式会社と連携(モニターツアー・アンケート調査)を検討する。 ・熊本県出身フランス・ミシュランの星を獲得した手嶋竜司氏にモデルとなる料理のレシピを考案してもらう。 ・YU・MEGURIST (ユ・メグリスト) と銘打ち、複数の温泉施設(さくら湯を含む)を回遊するプランを造成する。 ・各文化観光拠点施設との連携を図り、送客面での相乗効果を高める。
実施主体	平山温泉観光協会
実施時期	令和7年～令和11年
継続見込	期間中に文化観光推進者と協議し、計画終了後も継続できる仕組みを見出す
アウトプット目標	体験コンテンツ数 1回/年以上
必要資金調達方法	9.9百万円 (内訳:3.3百万円(自己資金)6.6百万(文化観光推進事業補助金(文化庁))) ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

8-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業

(事業番号4-①)

事業名	観光客に訴求力のある公式ホームページ開設事業
事業内容	「湯町音夜」の取組を一体的に情報発信するため、当計画の各事業と文化体験の魅力を解りやすく伝えるホームページを開設する。また、来訪者だけでなく地域住民(市民)に対しても「湯町音夜」という取組みの内容や意義を理解してもらい、共感を得るための情報発信を進めることによって、地域全体の活性化(まちづくり)をさらに推し進めていく。 【実施事項】 ・国内外からの来訪者が必要とする情報やサービスを的確に提供できる多言語対応のホームページを制作・開設する。
実施主体	やまが文化の芽
実施時期	令和7年
継続見込	本計画の整備を以て事業完了
アウトプット目標	ホームページの制作(令和7年)
必要資金調達方法	3百万円 (内訳:1百万円(自己資金)2百万(文化観光推進事業補助金(文化庁))) ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号4-②)

事業名	文化観光拠点施設ホームページ強化事業
事業内容	文化観光拠点施設4施設の既存のホームページに、SNS等との連携やデジタルコンテンツを加え、ハブ機能などを充実させる。 【実施事項】 ・文化観光拠点施設4施設の既存ホームページ内にデジタルコンテンツを追加 ・観光庁指針「HOW TO 多言語解説文整備」に沿って、既存ホームページの多言語化(大宮神社)
実施主体	山鹿市地域振興公社・大宮神社・やまが文化の芽

実施時期	令和7年～令和11年
継続見込	入館料等、自律的に資金を確保して実施
アウトプット目標	アクセス数の増加（前年度20%増）
必要資金調達方法	7.95百万円（内訳：2.65百万円（自己資金）5.3百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号4－③）

事業名	観光カード設置事業
事業内容	文化観光拠点施設を含む市内の観光スポットを周知するため、観光パンフレット的な意味合いで市内の観光カードを配布する。カードは表面にスポットの写真、裏面に特設サイトに移動するQRコードほか名称などの情報が掲載されているもので、これらを専用のカードスタンドに配置する。将来的にカードの対象を宿泊施設や飲食店まで広げ、事業資金の獲得につなげていくことを検討する。 【実施事項】 ・山鹿市内の観光スポットについて、12種のカードを各1000枚印刷。 ・カードスタンドを八千代座の木戸口付近、さくら湯の番台周辺に設置し、来訪者が自由に入手できるようにする。
実施主体	山鹿市
実施時期	令和8年～令和9年
継続見込	自主財源に補充して継続
アウトプット目標	文化観光拠点施設入場者の増加
必要資金調達方法	0.8百万円（内訳：0.3百万円（自己資金）0.5百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

8-1-5. 1.～4.の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

（事業番号5－①）

事業名	大宮神社燈籠殿展示環境改善事業
事業内容	来訪者に入館を促す誘導案内のための整備を行うとともに、展示物をより魅力的な環境で展示するため、展示空間を改修し、来館者の見学環境を向上させる。 （事業番号1－④に関連）  【実施事項】

	・照明のLED化、モニター設置、館内クロス等の改修、展示ケースの改修、入館案内看板並びにエントランス案内整備、来訪の契機となるようなフォトスポットを整備する。
実施主体	大宮神社
実施時期	令和8年
継続見込	本計画の整備を以て事業完了
アウトプット目標	大宮神社内燈籠殿入館者数の増加（令和8年に同6年比20%増加）
必要資金調達方法	13.5百万円（内訳：4.5百万円（自己資金）9百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号5-②）

事業名	山鹿灯籠民芸館灯籠展示棚設置及び照明LED化事業
事業内容	これまで別施設に保管されている過去の作品を灯籠民芸館に収蔵するための棚を設置し、その収蔵の様子も見学できるようにする。併せて、作品の蛍光管焼けを防ぐため、照明をLED化する。（事業番号1-③に関連） 【実施事項】 ・山鹿灯籠収蔵・展示棚の設置 ・照明のLED化
実施主体	山鹿市
実施時期	令和8～9年
継続見込	本計画の整備を以て事業完了
アウトプット目標	来訪者の満足度向上
必要資金調達方法	1.8百万円（内訳：0.6百万円（自己資金）1.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号5-③）

事業名	ライトアップ照明及び屋外音響整備事業
事業内容	各観光拠点施設のライトアップと音響を整備することで、新しい「湯町音夜」を来訪者に分かりやすく体感させコンセプトの定着化を図る。また、夜間イベントや貸し切りでの高付加価値プログラムなどを組合せることにより、各観光拠点施設の魅力を増大し、来館者の満足度を向上させ、来館者の増加を図る。（事業番号3-①、3-③、3-④に関連） 【実施事項】 ・湯町音夜が肌で体感できるような雰囲気づくりの醸成・認知度の拡大を行う。 ・来訪者が夜に幻想的な雰囲気を感じられるよう色が変わるライトアップを実施する。
実施主体	山鹿市地域振興公社・大宮神社・やまが文化の芽
実施時期	令和7年～令和8年
継続見込	本計画の整備を以て事業完了
アウトプット目標	来訪者の満足度の向上
必要資金調達方法	6百万円（内訳：2百万円（自己資金）4百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

8-2. 特別の措置に関する事項

8-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第8条・9条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

8-2-2. オブジェ等の設置に関する取組等

申請の名称	
申請の根拠法令・条項	
設置の目的	
設置期間	
設置場所	
オブジェ等の構造	
オブジェ等の工事実施の方法（※）	
工事期間（※）	
復旧方法（※）	
関係協議先	

8-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和7年度	13.75百万円	事業番号2-①	1.5百万円	0.5百万円（自己資金）1.0百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3-①	1.5百万円	1.5百万円（自己資金）
		事業番号3-④	1.5百万円	0.5百万円（自己資金）1.0百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3-⑤	2.5百万円	0.83百万円（自己資金）1.67百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号4-①	3百万円	1百万円（自己資金）2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号4-②	0.75百万円	0.25百万円（自己資金）0.5百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5-③	3百万円	1百万円（自己資金）2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
令和8年度	42.27百万円	事業番号1-①	2.1百万円	0.7百万円（自己資金）1.4百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-④	1.5百万円	0.5百万円（自己資金）1百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-⑤	1.8百万円	0.6百万円（自己資金）1.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-⑥	1百万円	0.33百万円（自己資金）0.67百万（文化財多言語解説整備事業補助金（文化庁））
		事業番号2-①	3百万円	1百万円（自己資金）2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2-②	0.3百万円	0.1百万円（自己資金）0.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号2-③	1百万円	0.33百万円（自己資金）0.67百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3-①	2百万円	2百万円（自己資金）
		事業番号3-②	0.07百万円	0.07百万円（自己資金）
		事業番号3-③	2百万円	2百万円（自己資金）
		事業番号3-④	6百万円	2百万円（自己資金）4百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号3-⑤	2百万円	0.66百万円（自己資金）1.34百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号4-②	1.8百万円	0.6百万円（自己資金）1.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号4-③	0.4百万円	0.14百万円（自己資金）0.26百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5-①	13.5百万円	4.5百万円（自己資金）9百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5-②	0.8百万円	0.34百万円（自己資金）0.46百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号5-③	3百万円	1百万円（自己資金）2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
令和9年度	25.27百万円	事業番号1-②	3.9百万円	1.3百万円（自己資金）2.6百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-⑤	2.3百万円	0.8百万円（自己資金）1.5百万（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号1-⑥	1百万円	0.33百万円（自己資金）0.67百万（文化財多言語解説整備事業補助金（文化庁））

		事業番号2-①	3百万円	1百万円（自己資金）2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号2-②	0.3百万円	0.1百万円（自己資金）0.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号3-①	1.5百万円	1.5百万円（自己資金）
		事業番号3-②	0.07百万円	0.07百万円（自己資金）
		事業番号3-③	2百万円	2百万円（自己資金）
		事業番号3-④	6百万円	2百万円（自己資金）4百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号3-⑤	2百万円	0.66百万円（自己資金）1.34百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号4-②	1.8百万円	0.6百万円（自己資金）1.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号4-③	0.4百万円	0.14百万円（自己資金）0.26百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号5-②	1百万円	0.33百万円（自己資金）0.67百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
令和10年度	20.57百万円	事業番号1-③	3.5百万円	1.2百万円（自己資金）2.3百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号1-⑤	2.2百万円	0.8百万円（自己資金）1.4百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号1-⑥	1百万円	0.33百万円（自己資金）0.67百万（文化財多言語解説整備事業補助金（文化庁）
		事業番号2-①	3百万円	1百万円（自己資金）2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号2-②	0.3百万円	0.1百万円（自己資金）0.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号3-②	0.07百万円	0.07百万円（自己資金）
		事業番号3-③	2百万円	2百万円（自己資金）
		事業番号3-④	5百万円	1.67百万円（自己資金）3.33百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号3-⑤	1.7百万円	0.57百万円（自己資金）1.13百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号4-②	1.8百万円	0.6百万円（自己資金）1.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
令和11年度	11.97百万円	事業番号1-⑥	2.4百万円	0.8百万円（自己資金）1.6百万（文化財多言語解説整備事業補助金（文化庁）
		事業番号2-①	3百万円	1百万円（自己資金）2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号3-②	0.07百万円	0.07百万円（自己資金）
		事業番号3-④	3百万円	1百万円（自己資金）2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号3-⑤	1.7百万円	0.57百万円（自己資金）1.13百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
		事業番号4-②	1.8百万円	0.6百万円（自己資金）1.2百万（文化観光推進事業補助金（文化庁）
合計	113.83百万円			

9. 計画期間

令和7年度から令和11年度までの5年間とします。